

令和2年第15回教育委員会定例会

開会年月日 令和2年8月6日(木)
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 河 口 浩
同 委 員 坂 口 節 子
同 委 員 高 柳 誠
同 委 員 新 井 良 保
同 委 員 中 田 尚 代

議 題

1 議案

- (1) 議案第48号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について
〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書
〔継続審議〕
- (4) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画(素案)の抜本的見直しを
求める陳情〔継続審議〕
- (5) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画(素案)の撤回を求める陳
情〔継続審議〕
- (6) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて
〔継続審議〕
- (7) 平成27年陳情第6号 情緒障害等通級指導学級での指導の存続と情緒障害児教育の充実
・発展を求める陳情〔継続審議〕
- (8) 平成27年陳情第9号 区立小中学校への「学校司書」配置を求める陳情書〔継続審議〕
- (9) 令和元年陳情第3号 大泉第二中学校の教育環境保全に関する陳情〔継続審議〕
- (10) 令和元年陳情第4号 大泉南小学校の教育環境保全に関する陳情〔継続審議〕
- (11) 令和2年陳情第1号 教科書採択にあたって多くの教員が見本本を研究し意見を述べる
条件整備を求める陳情
- (12) 令和2年陳情第2号 令和3年度より使用する中学校教科書採択にあたっての陳情書
- (13) 令和2年陳情第3号 2021年度より使用する中学校教科書採択についての陳情書
- (14) 令和2年陳情第4号 中学校教科書採択に関する陳情書

3 協議

- (1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕
- (2) 令和2年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

4 報告

- (1) 教育長報告
 - その他
 - その他

5 視察

- (1) 下石神井小学校

開 会 午前 10時00分
閉 会 午後 2時15分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	木 村 勝 巳
教育振興部教育総務課長	櫻 井 和 之
同 教育指導課長	谷 口 雄 磨
同 学校教育支援センター所長	小 野 弥 生
同 副参事	山 本 浩 司
こども家庭部長	小 暮 文 夫
こども家庭部子育て支援課長	山 根 由美子

会議に欠席した者の職・氏名

教育振興部教育施策課長	吹 野 浩 一
同 学務課長	清 水 輝 一
同 学校施設課長	牧 山 正 和
同 保健給食課長	唐 澤 貞 信
同 光が丘図書館長	清 水 優 子
こども家庭部こども施策企画課長	柳 下 栄
同 保育課長	宮 原 正 量
同 保育計画調整課長	吉 川 圭 一
同 青少年課長	石 原 清 年
同 練馬子ども家庭支援センター所長	今 井 薫

教育長

ただいまから、令和2年第15回教育委員会定例会を開催する。

本日の定例会は、新型コロナウイルス感染症対策として、出席者ならびに傍聴者を絞って行っている。

案件に入る前に、本日の審議環境についてご説明をさせていただく。

本日の会議については、傍聴を希望される方が多数いらっしゃったため、抽選を行った。抽選の結果、本日は9名の方がこの教育委員会室において傍聴をされている。また、抽選に当たらなかった方の控室にも、この会議室での審議の様子を音声放送している。適切な審議環境を守るため、会場を広くすることはできないが、より多くの方に審議の様子をお伝えするため、控室での音声放送という形で設定させていただいた。

各委員にご異存がなければ、このまま進めさせていただきたいと思うが、いかがか。

委員一同

結構である。

教育長

それでは、このまま審議を進めてまいりたいと思う。

それでは、案件に沿って進めさせていただく。

本日の案件は、議案1件、陳情14件、協議2件である。

まず、本日の会議の進め方について、お諮りをする。

議案第48号練馬区立中学校教科用図書採択については、陳情案件の後に審議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

- (1) 平成19年陳情第4号 「八の釜の湧き水」と憩いの森の消失に関する陳情について
〔継続審議〕
- (2) 平成23年陳情第4号 災害時と放射能対策に関する陳情書〔継続審議〕
- (3) 平成23年陳情第20号 子ども達を放射能汚染、特に内部被曝から守るための陳情書
〔継続審議〕
- (4) 平成25年陳情第9号 都市計画道路補助135号線の整備計画(素案)の抜本的見直しを求める陳情〔継続審議〕
- (5) 平成26年陳情第1号 都市計画道路補助第135号線整備計画(素案)の撤回を求める陳情〔継続審議〕
- (6) 平成26年陳情第2号 特別支援学級での肢体不自由児への対応を求めることについて
〔継続審議〕

- (7) 平成27年陳情第6号 情緒障害等通級指導学級での指導の存続と情緒障害児教育の充実・発展を求める陳情〔継続審議〕
- (8) 平成27年陳情第9号 区立小中学校への「学校司書」配置を求める陳情書〔継続審議〕
- (9) 令和元年陳情第3号 大泉第二中学校の教育環境保全に関する陳情〔継続審議〕
- (10) 令和元年陳情第4号 大泉南小学校の教育環境保全に関する陳情〔継続審議〕
- (11) 令和2年陳情第1号 教科書採択にあたって多くの教員が見本本を研究し意見を述べる条件整備を求める陳情
- (12) 令和2年陳情第2号 令和3年度より使用する中学校教科書採択にあたっての陳情書
- (13) 令和2年陳情第3号 2021年度より使用する中学校教科書採択についての陳情書
- (14) 令和2年陳情第4号 中学校教科書採択に関する陳情書

教育長

初めに、陳情案件である。

継続審議中の陳情のうち、(1)から(10)までの10件については、事務局より新たに報告される事項や大きな状況の変化はないと聞いている。したがって、本日は全て継続としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

(14)令和2年陳情第4号 中学校教科書採択に関する陳情書。この陳情については、本日新たに提出されたものである。

事務局より読み上げをお願いする。

事務局

それでは、新たに提出された陳情について読み上げさせていただく。

令和2年陳情第4号 中学校教科書採択に関する陳情書。

陳情代表者は記載のとおりである。

要旨1.教科書の採択にあたっては、学校現場の教員の意見を十分尊重して採択すると共に、採択の過程と規準を区民に説明し、公開すること。

2.道徳の教科書については、別冊が付いていたり、生徒の学びについて単元毎に自己評価を求めたりする教科書は、採択しないこと。

3.道徳教科書では、一部の教科書で史実とは異なると思われる記述がみられるが、道徳科に限らず史実を踏まえた教科書を採択してもらいたい。

以上である。

教育長

それでは、本日は教科書採択に関する陳情である(11)令和2年陳情第1号から、ただ

いま読み上げをした(14)陳情第4号の4件について審査を行い、結論を出したいと思う。各陳情については、複数の項目があるが、全て教科書採択に関するものであるので、項目ごとではなく一体的にご意見を伺い、採択または不採択の判断についても、項目ごとではなく総合的に判断をする一括審査としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

では、陳情の審査に入る。

最初に、令和2年陳情第1号 教科書採択にあたって多くの教員が見本本を研究し意見を述べる条件整備を求める陳情。陳情第1号について、各委員のご意見を伺う。いかがか。

坂口委員

この陳情について、今まで頂いた資料のことについてお話しする。

令和3年度から使用される中学校教科用図書の調査研究についての報告を7月28日の第14回教育委員会定例会において文書で受けた。担当された校長、副校長、主任教諭、保護者も含めた12名の委員の方々の58ページにおよぶ審査経過についての報告書を拝見した。また、7月10日の第13回教育委員会定例会終了後に、学校教育センターより15ページの報告書も頂いた。学校教育支援センターの報告によると、展示期間に図書館を含めて全ての会場にいらした方は105名であり、ご意見は90件であった。そのほか、教員からの意見は11件であった。それに関して全て報告を受けている。

どのご意見も大変貴重で、私は緊張感を持って真摯に拝見した。練馬の子供たちによりよい教科書を選びたいという思いを一つにして、こんなに多くの教員、保護者たちが英知と時間を尽くしておられることを知り、今日の採択の日を迎えた。したがって、もっと現場の教員や区民が閲覧できる保障をとという第1号、第2号、第3号の陳情意見については、私たちが頂いた報告書で十分足りていると思っているので、これは的確ではないと思っている。

教育長

ほかにいかがか。

高柳委員

坂口委員と同じような意見である。私も中学校教科用図書採択に関わる区民の皆さん、また教員の方々の意見、全て拝見した。また、教科書協議会からの答申もよく拝見して、一人一人の意見を熟読し、尊重しながら検討してまいった。この陳情に書かれていることは当然のことであるが、特に採択は必要ないと思う。

教育長

ありがとう。

ほかは同じようなご意見だろうか。

それではここでまとめたいと思う。この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる項目もあるが、受け入れることのできない内容の項目も含まれている。したがって、令和2年陳情第1号については、不採択としたいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和2年陳情第1号は不採択とする。

次の陳情案件である。令和2年陳情第2号 令和3年度より使用する中学校教科書採択にあたっての陳情書である。第2号について、皆さん方のご意見があったらお寄せいただければと思う。いかがか。

中田委員

先ほどの第1号と同じように、私も展示会に寄せられたご意見の資料には目を通してしている。また、中学校教科書協議会の調査研究についての内容も全て拝見している。先生方もきちんと教科書展示を見学し、研究に携わっていると思うので、この陳情に対しては不採択だと思っている。

教育長

ほかにいかがか。

高柳委員

第1号と重なるところもあると思うが、出された陳情の意見については、尊重すべきところもある。また、広い会議室で行ってほしいということについては、先ほど教育長からお話があったように、その趣旨を生かして審議の様子を音声放送されている。十分陳情の内容を配慮しながら採択にあたっていると思うので、この陳情も採択すべきではないと思う。

教育長

ほかにいかがか。

新井委員

ただいまほかの委員の先生方がおっしゃっていたが、私も区民の皆さんの意見、また先生方のご意見等を集約された資料を十分拝見し、私自身の採択に当たっての心構え、あるいは採択にあたっての所見等に触れさせていただいている。十分対応させていただいていると思う。したがって、不採択で結構だと思う。

教育長

ほかにいかがか。よろしいか。

皆さん同じようなご意見だったが、よければまとめさせていただく。

令和2年陳情第2号については、教育委員会として既に取り組んでいる項目もあるが、受け入れることのできない内容の項目も含まれていると考える。このため、令和2年陳情第2号については、不採択としたいがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和2年陳情第2号は不採択とする。

次の陳情案件である。令和2年陳情第3号 2021年度より使用する中学校教科書採択についての陳情書である。第3号について、ご意見、ご質問があったらお寄せいただきたい。いかがか。

坂口委員

質問である。今年の教科書展示会は、来場者105名、ご意見90件であったと報告を受けたが、昨年度の小学校のときより多かったような気がする。区民が非常に関心を持って、いろいろ見てくださる様子がよく分かった。前回の小学校のときは何人だったかその数字が分かるか。

学校教育支援センター所長

前回の小学校の採択のときの来場者の数字等であるが、令和元年度の採択の際は168名の方が展示会へ赴いていただいて、意見については、手元に数字を持ち合わせていないが、件数的には90件よりは多くのご意見を頂いたと記憶している。

坂口委員

今回の報告はとてもたくさんの意見が、心を込めて書いてあったという印象があった。数としては別に増えているということではないようである。しかし、一件ずつのご意見が大変充実していたということは申し上げたいと思う。ありがとう。

教育長

ほかにいかがか。

この陳情については、前の陳情第2号と項目的には大分重なる部分が多いかと思っている。第2号と同様の判断になるだろうと思っているが、特段異議があったらお出しただければと思うが、いかがか。

委員一同

異議はない。

教育長

それでは、ここでまとめたいと思う。

この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる項目もあるが、受け入れることのできない内容の項目も含まれていると考える。このため、令和2年陳情第3号については、不採択といたしたいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和2年陳情第3号は不採択とする。

次の陳情案件である。令和2年陳情第4号 中学校教科書採択に関する陳情書である。先ほど読み上げさせていただいたが、この陳情について、各委員のご意見を伺う。いかがか。

坂口委員

教科書の採択ということを私たちは教育委員として担わされているという思いもある。これを採用しないでほしいとか、これは駄目だとかそういうご意見は参考にはするが、私たちは今日ここで大変緊張感を持って、本当に心を砕いて読みこなし、教育委員に任されているという意識で採択をするので、この陳情の趣旨は合わないと思う。以上である。

教育長

ほかにいかがか。

高柳委員

先ほども述べさせていただいたが、重なる陳情の要旨があるので、再度お伝えさせていただく。

現場の教員の意見を十分尊重してほしいということについては、先生方の意見が一覧表になっているのを全てよく読んだし、また、教科書協議会の答申についても何日もかけて検討した。そのことから、十分尊重して対応して教科書採択にあたっている。あと、道徳教科書についてご意見があるが、このようなことについてもよく検討している。後ほど、一つ一つの教科用図書採択について、各委員が意見を述べるため、このような陳情の趣旨を十分生かしていると思うので、特に採択は必要ないと思う。

教育長

まとめさせていただいてよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、ここでまとめたいと思う。

この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる項目もあるが、受け入れることのできない内容の項目も含まれていると考える。このため、令和2年陳情第4号については、不採択としたいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和2年陳情第4号は不採択とする。

以上で陳情の審議を終了する。

学校教育支援センター所長

先ほどの答弁を訂正させていただく。

昨年度の教科書展示会では、来場者39人、ご意見54件であった。今回頂いた90件よりは半数程度ということで、坂口委員のご記憶のほうが正しかったということで訂正させていただく。よろしく願います。

教育長

それでは、陳情は終わらせていただく。

(1) 議案第48号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

教育長

次に、議案第48号 練馬区立中学校教科用図書の採択について。この議案について審議を行う。

この教科用図書の採択は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条第6号の規定により、教育委員会の職務権限になっている。採択にあたって、教育委員会では4月に中学校教科書協議会に諮問を行い、7月28日開催の第14回教育委員会定例会において、同協議会から答申を受けた。

また、教育委員会では、各委員がそれぞれ教科用図書の調査研究を行ってきた。そこで、本日は、各委員から種目ごとに推薦する教科用図書の発行者名を発言していただき、審議してまいりたいと思う。

本日は、全部で16種目の教科用図書を採択する。種目の審議順序は次のとおりとする。国語、書写、社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図、道徳、数学、理科、音楽（一般）、音楽（器楽合奏）、美術、保健体育、技術・家庭（技

術分野) 技術・家庭(家庭分野) 英語、この順番で審議を行う。

ここで、種目ごとの発言順序についてお諮りをする。最初の種目である国語については、坂口委員、新井委員、中田委員、高柳委員の順に推薦する発行者について発言を行い、全員の意見を確認したいと思う。その後は、種目ごとに最初の発言者を新井委員、中田委員、高柳委員、そして再び坂口委員からという順番で変更していく形で進めさせていただきたいと思う。なお、教育長である私も最後に意見を述べさせていただきたいと思っているが、この進め方でいかがか。

委員一同

結構である。

教育長

よろしいか。それでは、そのように進めさせていただく。

なお、12時を過ぎる場合は、一旦休憩を入れて、午後1時以降に続きを行いたいと思う。

初めに国語である。なお、全教科に対するご意見がある場合には、国語の意見表明に先立って行っていただくようお願いする。

それでは、坂口委員から発言をお願いします。

坂口委員

初めに申し上げる。令和3年度から使用される中学校課程の教科書を採択するにあたり、一人の区民として、選定者の一人としての視点、考えをお伝えしたい。

各教科のために用意された教科書は全部で145冊。ぎっしり詰まった充実した内容に圧倒された。日本の義務教育は中学校までで、これらの教科書を通して習得することで、生徒たちが卒業後は一人前の社会人として生きるための学びを修了したことを証明することとなる。往々に、主要科目だけではなく、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、道德などの分担ができ、芸術的、生きる力の涵養、健康保持に至る多岐項目についての内容に触れることができた。これだけたくさんの学びを終えれば、深い教養、知性、探求心、生きる力、人間としての人格の備えもしっかりと根づくことだろうと確信する。どの教科書も格調高く、12歳から15歳の中学生たちの柔らかい心に届くことを願いながら、各編集者たちが熱意と工夫を凝らして分かりやすく表現し、編集している意図を読み取っていく充実した時間でもあった。

教科書で知った、教科書に書いてある、といった、あるいは教科書的表現といった世の中の教科書観は、間違いを許さず、多角的に常に流動的な社会情勢にも合わせて、スタンダードを守りつつも、さらにそこから発展、飛躍を期待する学びの深化力も秘めていることを期待されている。正直、ここまで学ぶのか、こんなに大量の情報を表現し発信する力などが隅々まで書き表されたこれらの教科書で、どこまで学び取っていけるのかと、その重さに大丈夫かという危惧さえ感じた。中学校教育にかける多くの大人、現場の教員たちの理想が一冊の教科書に凝縮されていて、日本の学校教育に掲げられた思いを学び取ってほしいという期待感をひしひしと感じる。実態としては、文字どおり重

量も重く、かさも大きく、6教科ほどの教科書、部活用具、その他を毎日持ち運ばなければならぬ中学生たちの負担も思いやらずにはいられない。

このたびの新型コロナウイルス対処で一気に進められていくICTの充実により、タブレット教科書の時代が加速されることを願うものである。ほとんどの教科書に採用されているQRコードからは、動画や俯瞰図、朗読、外国語発音などが、紙面で表現する情報に加えて膨大な学習素材を提供しており、興味・関心を持って分かりやすい授業を進める力になっていることが分かる。情報量が格段に増えているし、授業の研さんにも大きな変革の過渡期だと確信した。自宅学習も可能となっているので、さらに発展していくと思う。

令和2年度使用の小学校教科書採択のときには扱いが主要ではなかった環境問題、SDGsについても、今回は横断的にたくさんの科目で取り扱われている。今後は、新型コロナウイルス以後の社会形成、生き方が大きく取り上げられることだろうと思う。事実、教科書には触れてなくても、教育現場では必ず教育指導にも教科指導にも生活指導にも、あるいは生き方そのものへの言及が問われることは必至で、ある意味では教科書にはないからこそ、教師は自分の生きる力で子供たちをどう守るか、単に健康を守る衛生指導だけではなく、本気で教育を考える力が試されていると思う。学習には大変重要であり、なくてはならない教科書ではあるが、時代の動きにより思いがけない力が問われてくる。学校現場、教師のプロとしての可能性に期待している。以上である。

では、国語について申し上げる。

1番に三省堂を取り上げた。どの学年もふさわしい文学作品を取り入れていて、非常に親しみやすいし、読書への案内も巻末にまとめてある。新しい漢字についての応用編も含めて、漢字を調べる楽しみができています。2年生の漢字の世界、熟語の構成とつなぐ工夫、短歌の紹介では、言葉の魅力を伝えてある。発表する場面を試みているのもいいと思う。文法の学習をまとめてある感じも大切だし、それぞれのページのどこかにいろいろな形でガイダンスがつながっていることも、国語の勉強の励みになると思うので、1番に三省堂を挙げた。

2番手は、教育出版。全体がすっきりと編集されていて、イラストも適当でよいと思う。学習している焦点は何かははっきりしているし、コミュニケーション能力を高めるショー・アンド・トークの学習などのこれからの深い学びとつながっていく。『蜘蛛の糸』は全文が掲載してあるのがよいと思った。以上である。

新井委員

私もまず評価の所見の前に、全体的な意見について述べさせていただきます。

私自身の教科書採択にあたっての基本的な心構えについて述べさせていただきます。まず、教科書採択に関われることを感謝したいと思う。私自身にとって多くの学びがあった。また、採択にあたっては、新学習指導要領、練馬区立学校教科用図書採択要綱などを踏まえ、話をさせていただきます。

採択にあたっての私の基本的な心構えとしては、次の3点である。1点目は、一人一人の生徒にとって忘れられない人生、生涯の教師との出会いにつながる教科書採択。2点目は、一人一人の生徒にとって今後の進路、キャリア、生き方につながる教科書採択。

そして最後に、3点目は、一人一人の生徒にとって自己肯定感、自尊心の向上、自信につながったと言える教科書採択でありたいと考えている。以上が私の基本的な心構えである。

それでは、国語について、私は1番目に推薦したいのが三省堂。2番目に東京書籍を推薦する。

三省堂であるが、教科書の巻頭で、確かな言葉の力をつけるためにとのテーマで、授業の進め方について分かりやすく解説している。つけたい力を目標に、具体的な授業改善のヒントについて、簡潔に示されている。この表題で何を学ぶのか、また、学び方について示されている。学びの道しるべとしてその点が要約されている。巻末においては、資料編として充実した内容の編集になっている。次に、思考の方法、メモを活用する、語彙の広がり、学習用語辞典、小さな図書館、辞典を活用する、話し合いの形式を選ぶ、日本文学名作集などが示されている。読む、聞く、話す、書くなどの言語能力向上のための内容、示唆およびヒントが含まれていると考える。また、表題ごとに紹介されている「私の本棚」などは、「小さな図書館」と併せて読書活動を推進するうえでとてもありがたい内容である。また、一つ一つの教材については、随筆、物語、説明文、詩、古文、漢文など多様な教材が取り上げられており、文章表現を学ぶうえで重要である。そして、課題である読解力、問題解決能力や表現力などにつながると考える。以上、総合的な視点から、三省堂を第1に推薦する。

2番目の東京書籍についての理由を述べさせていただく。東京書籍の特徴としては、巻頭に小学校での学びの振り返りがある。そして、各学年での学びの一覧の要約が示されている。言語活動としての話すこと、聞くこと、書くこと、読むことに対応する教材と狙いなどが解説されている。随筆、小説、説明文、物語、漢文など、多様な作品、教材に触れることができる。これらの教材を通して、授業の工夫・改善などから主体的・対話的な深い学びにつなげることが課題でもあり、大切と考える。各教材の目標等を達成するうえでの読書活動の充実のために、読書案内として何冊かの本が紹介されている。学習の進め方、教科書の使い方としての説明が一覧表として示されている。「ここが大切」とのキーワードで目標、問いかけ、言葉の力、振り返りと学びの内容が強調されている。また、資料編の「言葉を広げよう」、「学習用語一覧」、「学びを支える言葉の力」などは、授業の流れに沿って活用できる。教科書をコンテンツと資料編とに大きく分けて、深い学びにつながる編集がされている。以上である。

中田委員

私は、今回の新しい学習指導要領がスタートするにあたり、主体的・対話的で深い学びの視点から、社会に出ても役立つ学びができるものをということで、教科書を読み進めてきた。どの出版社も内容が盛りだくさんで丁寧で、参考書のようなと感じた。教科書の隅から隅まで読み解けば、自学自習で全ての知識を得ることができるのではと思うほどだった。ただ、教科書を読むだけではできないことは、先生と生徒との対話、生徒同士で行うグループディスカッションである。それを導き出してくれるものを重点的に選んだ。現代の子供たちの活字離れ、読書離れが懸念される中、義務教育である中学校の3年間で半ば強制的にでも学習する最後の場として、教科書という文字を読んでもら

いたい。中学生の子を持つ保護者という視点から、とにかく手に取って読んでくれるもの、内容がどんなにすばらしくてもまず読んでくれないことには意味がないと考え、読みたくなるような興味を引く題材、視覚的に見やすいものをということも考え、選んだ。

最初に国語だが、最初に申し上げた子供たちの活字離れ、読書離れが懸念される中、国語という教科でぜひ日本語の美しさを学んでほしい。グローバル化に向けて外国語を学ぶことも大事なことはあるが、まず母国語をしっかり学び、語彙力を少しでも高めてもらいたいと思う。そして、1年生で国語が苦手にならないように、文字の大きさが統一されていて見やすく、挿絵が文を邪魔しないもの、親しみやすい題材を扱っているものを選んだ。1番が三省堂で2番が光村図書である。

1番の三省堂は「学びの道しるべ」として内容を整理する、読みを深める、自分の考えを深める、学びを振り返るという見開き1ページで非常に整理整頓されていて、見やすく分かりやすい構成となってスタートしている。「思考の方法」では、学習活動と関連づけていて、「語彙を豊かに」では、五感を磨くために、様々なテーマで教材に関連した語彙を取り上げている。「読み方を学ぼう」では、思考力、判断力、表現力を伸ばすための方法が示されていて、予習、復習に適していると思う。終わりの章には「読書の広場」として本の紹介、資料編として情報活用、古典芸能、社会生活に生かせる手紙・はがき・メールの書き方まで分かりやすく丁寧に記載されていた点がよいと思った。

光村図書である。光村図書は序章に、音読発表を「声を届ける」、学習の記録を「書き留める」、辞典の活用を「言葉を調べる」という表現の仕方をしている点に、一つ一つの表記のこだわりが見られた。また、間に入っている「季節のしおり」では、春は花にまつわる言葉として花霞、花便り、夏は風にまつわる言葉として薫る、青嵐、秋は月にまつわる言葉として有明の月、星月夜、冬は雪にまつわる言葉として細雪、雪明りと挙げている。また、巻末の「時を表す言葉」では、一日の時の移ろいを表す表現として、黎明、黄昏、東雲と写真も交えて言葉の情景を教えてくれている。日常生活ではなかなか使うことがない言葉ではあるが、一瞬の通りすがりでも頭の片隅にでも入ってほしいと思える豊かな日本語があふれていた。また、1年生で国語が苦手にならないようにと、「言葉に出会うために」という始まりで親しみやすい題材から入っている。「学習の窓」では、考えるヒントを与えてくれている、どのように学習を進めていけばいいかを示してくれている。1年生の古典では、「竹取物語」を取り上げているが、少しでも親しめるように、かぐや姫の絵本や漫画、映画の紹介もあり、興味を持って古典に取り組んでくれるような配慮もされていた。それで私はこの2社を選んだ。

高柳委員

初めに、全体のことについて話をさせていただく。ある書籍に、著名なジャーナリストと作家が中学校の教科書について感想や意見を述べている対談が載っていた。今回、中学校教科書の調査研究を進めるにあたり、私も同様の感想を持ったので、同じ年代の方だから同じような感想を持つものだと感慨を覚えた。この対談の要旨と思ったのは、半世紀以上前に中学生だった人間にとって、今の教科書はまさに隔世の感を禁じ得ないものであり、一言で言えば昔の教科書に比べて大変よくできている。全体を通じて、昔の教科書と一番の違いを感じたのは、何のためにこれを学ぶのか、どう役に立つのかと

という観点が強く意識されて作られているということである。このことは、新学習指導要領の何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶか、何が身についたかという改善事項を具現化できている教科書が数多くあるのだと考える。また、私自身このような教わり方をしたかったとも、このジャーナリストは述べていた。

私は、この感想以外にも、次のことを重視して作成している教科書が多くあると思っている。1つ目は、生徒が基本的、基礎的な知識および技能を確実に習得して、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力および学びに向かう力や人間性等を育み涵養することができるように工夫してある。2つ目は、生徒が各教科の学習目標、内容に合った問題を見いだして、課題を持って学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりしながら、課題を追求し、解決する力を育てることができるように工夫してある。3つ目は、生徒が自ら学習課題や学習活動を選んだり、考えたりする機会を設定し、学習への興味・関心を高めて、主体的に学ぶことができるように工夫してある。このような教科書を心血を注ぎ、尽力して作成している関係者の皆様に深く敬意を表したいと思う。

それでは、国語の教科書について、1番に三省堂、2番に光村図書を推薦する。時間の関係上、一つ一つの図書についての各論は控えさせていただく。

私が調査研究を進めるにあたり、特に重視した観点は次の3点である。1つ目は、生徒が社会生活に必要な国語について、基礎的、基本的な知識や技能を習得して適切に活用することができるよう、教材や資料が工夫されている。2つ目は、生徒が古典や近世、近代、現代の名文に数多く触れることができ、言葉や文章が持つ価値について認識を深めるとともに、進んで読書をしようとする意欲や国語の能力をさらに向上させようという態度を養うことができるように工夫されている。3点目は、教材について。1つ、科学的、論理的に物事を捉え、考察し、視野を広げるのに役立つ。2つ、人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つ。3つ、人間社会、自然についての考えを深めるのに役立つ。4つ、我が国の伝統や文化への理解を深めるとともに、尊重する態度を育てるのに役立つ。5つ、国際理解を深め、国際協調の精神を養うのに役立つ。以上のことを留意して教科研究を進めた。先ほどの三省堂と光村図書を推薦する。

教育長

最後に私からも意見を述べさせていただく。私は、1番は三省堂、2番は光村図書を推薦する。

皆さん方も触れられているが、それ以外のことであえて申し上げれば、三省堂には、「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」という項目があった。1年生は防災意識、2年生は共生社会、3年生はメディア・リテラシーがテーマであったが、大変印象深く読んだ。読解力が子供たちにはないと言われているが、そのフォローも三省堂の教科書はしっかりと見てくれているのだと思い感心をした次第である。

光村図書も読む、話す、聞く、書くという国語の要素をバランスよく取っていると思っている。光村図書はこれまではどちらかという読むほうを重視していたかと思ったのが、今回は非常にバランスがよかったと思う。

さて、国語について、皆さん方からご意見を頂いた。それぞれ全員が1番に推したのが三省堂であった。国語については三省堂を採択するということでご異論はないか。

委員一同

はい。

教育長

よろしいか。それでは、国語は三省堂を採択する。
次に、書写に移る。書写は、新井委員からご意見を願います。

新井委員

書写について、1番目は光村図書、2番目は教育出版を推薦する。

まず、光村図書についてであるが、この教科書の特徴は以下の点である。「さあ、書こう」とのタイトルで三年間の目標が明らかになっている。目標は、1つ、楷書と行書、仮名の筆遣いや字形を理解して書く、2つ、楷書と行書を使い分け、配列や筆記具を工夫して書く。3つ、身の回りの多様な文字の表現を知る。次は、「学習のはじめに(姿勢・筆記具の持ち方)」についてである。書くときの姿勢、用具の準備、筆記具の持ち方、用具の片付けが写真入りで細かな注意点も書かれていて分かりやすい。次は、「学習のはじめに(字形の整え方)」である。筆遣い、字形、組み立て、配列、生活に生かす、である。次に、学習の進め方として3つのキーワードが示されている。考えよう、確かめよう、生かそう、である。主体的・対話的で深い学びにつながると考える。次に、「漢字の筆遣い」であるが、この教科書の優れた特徴は次の内容である。「トン、スー、トン」で、始筆、送筆、終筆のリズムを意識させるという点である。この教科書のよい点が集約されていると考える。巻末の資料の「中学生のための漢字辞典」はありがたい。また、お手本の楷書、行書がすばらしい。

次に2番目の教育出版である。この教科書の特徴は、目次で全体の構成が明らかになっている。基本的な考え方としては4点にまとめられている。「目的に合わせて書こう」、「姿勢と用具の使い方」、「学習の進め方」、「書写をとおして学んでいくこと」である。特に、「書写をとおして学んでいくこと」であるが、大きな木をイメージさせて、分かりやすく説明されており、書写の学びを表現している。目標としては、「自ら考え、文字を効果的に使う力を学ぼう」である。この目標を達成するために、各学年の内容が示されている。第1学年は楷書、第2学年は行書、第3学年はまとめである。巻末の資料には、はがきの書き方、小・中で学習した漢字一覧表などがある。

中田委員

私は、1番に光村図書を推薦する。巻頭ページですずり、墨、鉛筆、紙と日本の伝統文化である道具の紹介をしている。動画のコンテンツはほかの4社ともあり、それはどれも同じだが、自宅で映像として書き方を見ることができるという点でよいと思った。朱書きでの運筆が大変豊富で非常に分かりやすいと思った。ほかになかったのが、ユニバーサルデザインの書体を記載されている点である。かなりシンプルでまとまっている

感じがあったが、雑多な感じがなく、お手本とするには見やすい教科書だと思った。

2番は教育出版である。こちらでもコラムで、「筆、墨、硯、紙は、「文房四宝」と呼ばれた」と用具と紙の記載があった。始まるのページで、「目的に合わせて書こう」と呼びかけて、その文面で「文字には、人と人をつなぐという大切な役割があります」と明記している。書くことが少なくなった現代において、文字を書く大切さを伝えている。お手本が右側にあることにより、実際に書く際に取り扱いやすいという利点もあると思う。楷書と行書の違いが大きく載っていて、生徒が比べる際に分かりやすいと思った。以上である。

高柳委員

書写の教科書については、東京書籍と教育出版を推薦する。

書写については、次の3点を重視して調査研究を進めた。1つ、生徒が毛筆や硬筆の知識や技能を確実に習得して、文字を正しく整えて早く書くことができるように教材や資料が工夫されている。2つ、生徒が漢字や仮名文字に対する興味、関心を高め、書写の能力をいろいろな学習や日常生活に役立てる態度を育てることができるように工夫されている。3つ、書写の学習の目標や、進め方が明確に提示されていて、生徒が主体的に学習できるように工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、1番目に光村図書、2番目に教育出版を選んだ。光村図書について、他の委員が触れなかった部分について申し上げる。

光村図書の場合は、文字の芸術性を伝えようというページがあって、例えば1,000年続いている源氏物語がどういうふうにして書き継がれてきたかが載っていて、大変印象的であった。それから「全国文字マップ」という形で普段見ている町にある文字を見つけることで、それぞれの地方のことを思うこともできるし、横断的な学習にもなると思った。あとは皆さんが申し上げた楷書と行書の違いを丁寧に伝えようとしているところもよかったと思う。

はがきの書き方はどの教科書も扱っていたが、常識として知っておくべき書き方などは教育出版が非常に分かりやすかったと思っている。それから、壁新聞の文字の工夫も中学生たちは必ず体験することであるから、非常に参考になると思った。また、著名人たちがどういう文字を書くのかということが載っているページも大変楽しいと思う。以上である。

教育長

ありがとう。

私は、1番が光村図書で2番が三省堂と考えていた。書写については、いろいろな理由を皆さん方に既にお話しいただいたので、私が申し上げることは特にない。

ご意見をお伺いして、光村図書を1番に推す方が私を含めて4名いらっしゃった。教育出版を推す方も4名いらっしゃる。ほぼ同じであるが、光村図書を1番に推している方が多かったということなので光村図書としたいと思うが、高柳委員だけが光村図

書は特に推薦をされておられなかったので、ご意見をお伺いしたうえで判断したいと思う。

高柳委員

私も光村図書の書写の教科書はよいと思う。特に楷書や行書、また文字を使い分けるという学習内容、漢字や仮名の書き方の知識・技能を確実に習得できるように工夫されているところである。たとえば、書写ブック、コラム、日常に役立つ書式のような内容である。子供たちにいろいろな学び方とか興味・関心を高めることができるということで、光村図書ということでも構わないと思う。

教育長

ありがとう。

高柳委員からもご意見を頂いた。判断したいと思うが、書写については1番目に推す方が多かった光村図書としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、書写については光村図書を採択する。

続いて、社会の地理的分野である。中田委員から願います。

中田委員

私は、地理は帝国書院を推薦する。

巻頭ページにSDGsを載せていて、子供たちへの意識づけをしていると思う。諸外国の写真の横に国旗が載っていて、視覚的に記憶に残る効果があるので、とてもいいと思った。見開きで小単元が構成されていて、左上に写真や学習課題、右上にグラフや図表、右下に確認や説明とすっきりまとまっているので非常に見やすいと思った。身近な地域の調査では、練馬区が別に挙げられていたり、昼間人口と夜間人口の違いで練馬区の記載ページもあり、授業の中でも興味を持って取り組める内容だと思う。また、学習の振り返りが見開き1ページになっているので、学習のまとめの後の地図や写真が豊富なため、子供たちが将来行ってみたいという夢も膨らむと思った。以上である。

高柳委員

地理的分野の教科書については、教育出版と帝国書院を推薦する。

調査研究するにあたって重視したのは3つの観点である。1つ目は、生徒が興味・関心を持って地理的分野の学習を行い、我が国の国土や世界の諸地域に関して、地域の諸事情や特色を理解したり、教材や資料から様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身につけたりすることができるように工夫されている。2つ目は、生徒が地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、地理的な課題の

解決に向けて公正に判断したりする力や、自分が考えたことを説明したり議論したりする力を養うことができるように教材や資料が工夫されている。3つ目は、日本や世界の地域に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に、様々な課題を主体的に追究しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や世界の諸地域の多様な生活、文化を尊重しようとする態度を深めることができるように、教材や資料が工夫されている。以上である。

坂口委員

地理的分野は、1番目に帝国書院、2番目に東京書籍を挙げた。

帝国書院のいいところはたくさん挙げられているが、その中でも例えば世界の諸地域、日本の諸地域に分けて、気候や農業、産業などの諸統計が記載されているし、地域的な違いを習得できる配置が大変分かりやすいと思う。世界の人々の暮らしの紹介は、この教科書でなければ出会わないだろうというものもある。たとえば、アラビア半島のらくだ市は興味深いし、ペルーのじゃがいも収穫の風景などの写真、海外の農業事情などがある。もちろん自分の住んでいる地域である練馬区について、しっかり興味が持てるように、学習できることもよいと思う。

次に、東京書籍である。まずは、宇宙から地球や日本列島を俯瞰する写真。日本の地域の紹介では、日本にある世界遺産の紹介とともに、都市圏への人口集中と交通網の発展、水俣の公害とその回復の過程、本州四国連絡橋の工事、栽培漁業への道、老朽化したニュータウンの50年後の再開発など、地理という分野の学習内容の深さが大変よく分かる。たくさんの写真、資料を示して研究したり、海外の見方、考え方を振り返ることができるため、それぞれの対話へとつながるように工夫されていると思う。

新井委員

私は、1番目として帝国書院、2番目として教育出版を推薦する。

まず、1番目の帝国書院であるが、この教科書の特徴は、写真、地図、図表が他の出版社と比べてきれいで鮮やかでとても見やすい。巻頭の「この教科書の学習のしかた」は、見開きで学習の仕方についてポイントが示されている。新学習指導要領のキーワードである主体的・対話的で深い学びを踏まえて、それぞれの学びの特徴に合わせて課題等が分かりやすく説明されている。特に、特設ページは十何か所、「節の学習を振り返ろう」とのテーマで設定されており、各地域の特色、課題等が取り上げられており、深い学びにつながる内容であると考え。その他、コラムとして23テーマ、「展示発表のしかた」、「ポスターの作り方」、「日本の略地図の描き方」など、基礎・基本的な内容としての学びに活用できる。また、うれしいことに、身近な地域の調査の章で、練馬区の大泉地域が取り上げられている。調査に対する理解を深める上で効果的であると考え。さらに、「分かりにくい用語の解説」として、食料自給率、大陸棚、ASEAN、南海トラフなど52項目を学ぶことができる。読解力、問題解決の能力などの向上につながる編集であると考え。以上の総合的な理由から1番目として推薦する。

2番目は、教育出版である。目次で学びの全体像が明らかになっている。主な内容としては、世界と日本の地域構成、世界の様々な地域、日本の様々な地域となっている。

そして、章ごとに「学習のまとめと表現」があり、振り返りとまとめの整理ができるようになっている。関東地方の学習では、練馬区の昼夜間人口に関する記述があるため、学習への理解が深まると考える。さらに、コラムの「読み解こう」で課題が出されている。そして、「確認」、「表現」とのテーマで重要な点が指摘されている。まさに深い学びにつながる内容である。巻末の資料で、用語解説が充実している。以上である。

教育長

私は1番が帝国書院、2番が東京書籍と考えた。

帝国書院のいいところは既に皆様方におっしゃっていただいた。地理的な見方、考え方の説明は非常に分かりやすく、丁寧なため、思考力、判断力、表現力をつけていけると思う。生徒の主体的・対話的で深い学びを確保する教科書になっているという印象を持った。

さて、地理的分野については、帝国書院を1番に推す方は4名、高柳委員も2番手に推していらっしゃる。帝国書院を地理的分野の教科書として採択したいと思うが、ご異議ないか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、地理的分野については、帝国書院を採択する。
次に、社会（歴史的分野）である。高柳委員から願います。

高柳委員

歴史的分野の教科書については、教育出版と山川出版社を推薦する。

調査研究するにあたって重視したのは次の3点である。1つ目は、生徒が、興味・関心を持って学習課題の追究や調査活動、まとめる活動などの歴史的分野の学習を行い、我が国の歴史の大きな流れを世界の歴史を背景にして各時代の特色を踏まえて理解するとともに、歴史に関する様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身につけることができるように教材や資料が工夫されている。2つ目は、生徒が、歴史に関わる事象の意味や意義、並びに伝統と文化の特色を多面的、多角的に考察したり、歴史的な課題を把握し、公正に判断する力や自分で考えたことを説明したり議論したりする力を養うことができるように工夫されている。3点目は、生徒が、歴史に関わる事象について、様々な情報や資料を効果的に収集、読み取り、まとめる学習を進めたりしながら、よりよい社会の実現を考えて歴史的な課題を主体的に追究しようとする態度を養うことができるように工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、1番目に教育出版、2番目に東京書籍を選んだ。

教育出版は、各章のまとめの学習として問いかけがある。資料や年表を提示して、自

分の考えをまとめていく方法で、理解をさらに深める効果があると思う。編集の中身として、第5章、第6章、第7章の近代から現代の流れが丁寧に扱われていると思った。特に、子供たちが自分と同じ世代の人たちの体験やその周りの大人たちの市井の人々の暮らしの中の光と影を取り上げていて、同じ世代として共感できるのではと思った。大人たちは既に体験していても、まだ生まれていなかった子供たちが昔のこととして傍観者のにならないためにも、第7章のまとめに、世界的視野から考えて歴史を学んでいこうという意義を編集の基礎として感じる。

東京書籍は、歴史を学ぶ意義が漫画を駆使して表現されている。小学校の学びと連携し、非常にやさしいガイダンスになっている。年表は日本、アジア、欧米が同じ帯で表現していて分かりやすいし、年代の横断的な把握はとても大事だと思う。日本史、そして世界史と交えて編集し、中世の日本、アジア、世界に広げていくやり方である。歴史的な用語、例えば百姓一揆などの単語にゴシック体としてページ数を小さく入れ、内容をさらに詳しく説明していこうというやり方など、あちこちに工夫がみられる。右ページの下に、チェックの欄を入れて、さらに詳しく調べていこうという興味・関心を起こすところは大変行き届いた編集になっている。以上である。

新井委員

1番目は教育出版、2番目は東京書籍を推薦する。

教育出版は、まず初めに巻頭の「教科書の使い方」を通して、歴史学習の概要を説明している。そして、具体的には各章ごとに「学習のまとめと表現」とのタイトルで、その章の内容の振り返りを通して概観している。まとめとして、学びの確認ができる。また、各章で学んだその時代の日本と世界の動きを年表で表現している。比較できて分かりやすい。また、説明だけでなく、重要事項を問題形式にして答えを求めている。このことによって、読解力、問題解決能力、表現力の向上につながると思う。さらに、各節にはその節のポイントを学習課題として示している。また、学びの意識づけとして大切と考える。生徒は授業の展開、流れの中でも学習課題を踏まえた学びができる。さらに、各章の初めに「まなびリンク」を設け、学習に役立つ情報を得ることができるようになっている。

次に、東京書籍である。全体を概観して、歴史的資料としての写真、図表、絵、書、年表など様々な資料が豊富である。説明や見出しの文字とのバランスが課題である。各章の章末の内容が大切と考える。「資料から発見」、「もっと歴史」、「地域の歴史を調べよう」、「基礎・基本のまとめ」、「まとめの活動」の5項目の内容である。一つ一つの課題にどう取り組むのか、主体的・対話的で深い学びにつなげたい。ICTを活用した学習として、Dマークのあるページではインターネットを使った学習ができる。以上である。

中田委員

歴史的分野では、私は1番に教育出版を選んだ。理由は、1年生の巻頭ページの「歴史の流れをとらえよう」で、歴史すごろくを使用し、小学校での学習を振り返っていることで、既に学習した内容が出てくることにより、安心して楽しく取り組める工夫がされていると思う。章の始まりでは、年表が他国と比較ができるため、日本史と世界史の

時系列が見やすくなっている。日本の歴史を学ぶ際、世界がどんな情勢だったかを同時に知ることが大事だと考えた。時代区分が中央にあることも特徴で、学習している時代がいつなのかすぐ分かるという利点もある。学習の最後に「確認」「表現」があり、学んだことをさらに発展させて生徒同士での発表や話し合いへ進めるように構成されている。各章の始まりのページに「まなびリンク」のQRコードが設けられているので、さらに学習を深めることができると思った。

2番は東京書籍である。こちらも1年生の巻頭ページで、なぜ歴史を学ぶのか、未来を生きるためになぜ歴史が必要なのかを簡潔に説明していて、年号と歴史上の人物をただ暗記するのではなく、歴史を学ぶ意義を伝えている。第1章の「歴史へのとびら」では、歴史の流れとして小学校の振り返りを漫画で表していて、見ただけで楽しく、時系列的にも分かりやすいと思った。章の初めにイラストつきの年表があり、視覚的にも見やすくなっている。その右側には、大きな問いとしての探究課題が提示されていたり、また、小単元に学習課題としての小さな問いがあり、右ページ下にチェックとトライとして学んだことの確認ができる構成になっていて、さらに深く学べるように考えられていると思う。巻末には、旧国名の地図と全国の史跡が載っていた。「歴史の中の植物」というのも他社にはなく、古文や理科の教科と関連づけできるものであると思った。以上である。

教育長

私は、1番が教育出版で、2番が東京書籍と判断した。

歴史の教科書を選ぶ視点としては、1点目は、歴史的な見方、考え方を働かせた課題解決的な学習展開になっているかどうか。2点目は、生徒の主体的・対話的で深い学びを確保する内容になっているかどうか。3点目は、生徒が多面的・多角的に判断するために必要な情報が記載されているかどうか。この3点を中心に選んだ。

教育出版は、単元の初めに単元全体の学習内容をイメージさせる主題があるが、その置き方は巧みだと思うし、学習課題がきちんと明示しており、課題意識を持って学習に取り組めるようにしていると思った。また、毎時間学習の最後に学んだことを確かめる「確認」と、それを使って文などにまとめる「表現」が右ページ下に書かれていて、自分が学んだことを活用したり、他の生徒と話し合ったりすることができるようになっていて、いいところもいろいろと思った。

また、東京書籍も、単元の導入部で単元全体を貫く探求課題を立てて、1時間の学習課題、節ごとの課題などを軸にした課題解決的な学習の流れが身につくように構成されていて、これもいい教科書だと思った。

さて、歴史的分野については、全ての方が推薦をされているのが教育出版である。さらに、坂口委員、新井委員、中田委員と私が1番目にしているということもあり、教育出版を採択したいと思うが、ご異議ないか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、歴史的な分野については、教育出版を採択する。
次に、社会（公民的分野）である。坂口委員から願う。

坂口委員

公民的分野については、私は1番に教育出版、2番に東京書籍を挙げる。

教育出版は、まずガイダンスにおいて、なぜ公民という学びがあるかという問いに對し、現代社会に生きるために重要な学びであるためとしている。世界とつながることの意義、誰もが活躍する社会を目指す、日本の伝統文化を尊重し、憲法、人権を大切に、差別のない社会づくりをする、地域に生きる私という自分への思いを伝えている。230ページに「私の提案」というのが大変いい取組と思う。自分で取り組もうという調べ学習につながっていく。それから、235ページに、公民学習の終わりにというところがあるが、その中で「終わり」は次の「始まり」という、この出版社の方が特別皆さんに伝えたいことをエピローグはプロローグという形で書いている文書があるが、SDGsの17の目標とか、私たちはいくつも課題を持っているのだというアピールになっていると思った。ただ、なぜ薄い文字になっているのか聞きたいと思った。

東京書籍であるが、現代社会の捉え方として、今抱えている問題、持続可能な社会の実現、グローバル化、少子高齢化、情報の急激な発達を捉え、その中で社会的信用育成のために公平、公正、人権の守り方、選挙の仕組みなどについて、どれも適切な解説がある。三権分立の意味、裁判所制度、国際社会の戦争、紛争、難民、経済格差、そして身近な地域社会づくりなど、情報量が大変多く、多様なテーマを隙間なく集めていると思った。個人的には、210ページの「はちみつの争い」という考察、ディベートなどが大変分かりやすく、興味深く拝見した。以上である。

新井委員

社会の公民的分野は、1番目が東京書籍、2番目が教育出版である。

まず、東京書籍である。巻頭の「公民学習の初めに」で、章の内容が明らかになる。第1章は、課題をつかむ、第2章から第3章は課題解決を目指して、第4章はまとめの活動である。課題の追及を深めるコラムなどが充実している。「みんなでチャレンジ」では、対話的な活動、「スキルアップ」では、基礎的・基本的な技能、「見方・考え方」では、学習を深めるという内容になっている。他分野、他教科との関連を図った学習準備が用意されている。章ごとに基礎・基本のまとめ、まとめの活用が設定されていて、振り返り、学びの整理ができる。特設ページの「もっと公民」、「18歳へのステップ」では、より深い学びができる。巻末資料の参考法令集、用語解説は今後とも活用できる貴重な資料だと考える。

次に、教育出版である。巻頭の「学びの記録としての「公民のノート」づくり」は、主体的な学びを育てる上で大切と考える。さらに、「公民の学習を始めるにあたって」では、4つの学びの内容が示されている。特に、持続可能な開発目標という大きなテーマが中心である。それを踏まえた基本的な考え方として、「10年後の自分や地球」、「SDGsと「本質的な問い」」、「つながり」への気づき、「地理、歴史、そして公民へ」と

いうタイトルである。公民で学ぶ主な学習の見通しは次の内容である。現代社会の学習、政治の学習、経済の学習、国際社会の学習、社会科のまとめ、公民で意識したい具体的な学び方である。以下の内容は今後とも活用できる大切な内容と考える。公民の教科書を隅々まで活用しよう。新聞やテレビ、インターネットなど多様なメディアの情報を自由に活用しようである。

中田委員

公民的分野は、1番に東京書籍、2番に教育出版、3番に帝国書院として、3つ選ばせていただいた。

まず、東京書籍である。「みんなでチャレンジ」として話し合う場面が設定されているため、3年生として疑問に思ったことや自分の意見を発表し、相手の意見を聞くことによって意見交換することで、対話的な学習の効果が期待されると思う。学習課題で問いかけをし、チェック・トライで必ず確認をすることにより、学びを深くできるようになっているのが東京書籍の特徴だと思う。「もっと公民」では、学習内容を深めたり、広げたり、違う視点で捉える項目を示している。また「公民にアクセス」が随所に載っているが、紙飛行機のイラストを使っていて、興味を持って読みやすいものだった。「18歳へのステップ」は、選挙権年齢と成年年齢の引下げを受け、18歳に向けての準備として選挙や契約についても取り扱われていて、3年生が準備をするにあたって学校で学ぶ機会があるのはいいと思った。

2番目の教育出版についてである。各章の初めに「まなびリンク」を設けていて、単元で扱うものを各自で学ぶことができる内容になっている。公民の学習を始めるにあたり、SDGsの17の目標を挙げて分かりやすく説明し、ページの随所にどの目標であるかの番号も記載されていた。各章の終わりに、関連した項目を確認できるようにしているのも特徴で、巻末でもSDGsの記載があり、知らず知らずのうちに身につけていく工夫がされている。地図や写真、資料も豊富だったと思う。巻頭ではさらに公民で学ぶ主な内容と学習の見通しが提示されていて、学習前に意識づけする効果が期待される。学習課題で問いかけをし、確認、表現で振り返るように構成されているのが教育出版の特徴かと思う。「公民の窓」というのも随所に載っていて、興味や関心を持たせる内容のもので、知識としての蓄えができるように考えてあると思った。

3番目の帝国書院である。特設ページ・コラムが充実していて、内容も身近なものを取り上げているため、興味を持ちやすくなっている。「アクティブ公民」は、10テーマ設けられていて、対話的な学習ができるようになっている。「学習の前に」では、章に入る前に見通しを立ててから学習するようになっていて、章の終わりには「章の学習を振り返ろう」と見開きで確認をするようになっていて、こちらも地図や写真、資料も豊富で、学習をさらに深めることができると思う。巻末に「防災・減災を通じた社会参画」を載せることにより、防災の意識を高める効果がある内容だと思う。以上である。

高柳委員

公民的分野の教科書については、1番目は東京書籍、2番目は日本文教出版を推薦する。

調査研究するにあたって重視したのは次の観点である。1つ、生徒が興味・関心を高めて公民的分野の学習を進めて、個人の尊厳と人権の尊重の意義を正しく認識し、民主主義や民主政治の意義、現在の社会生活や国際関係などについて理解を深めるとともに、教材や資料から現代の社会的事象に関わる様々な情報を効果的に調べ、まとめる技能を身につけることができるように工夫されている。2つ、生徒が、現在の社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察したり、現代社会の課題について公正に判断する力や、思考・判断したことを説明したり討論したりする力を養うことができるように工夫されている。3つ、現代社会に見られる課題について、生徒がよりよい社会の実現に向けて主体的に社会に関わろうとする態度や、我が国や世界の平和や繁栄を図ること、また世界各国が互いに尊重して各国民が協力し合うことなどの大切さを育むことができるように工夫されている。以上である。

教育長

私は、1番は東京書籍で、2番は教育出版である。

東京書籍は、各章の初めに少人数の体験的な活動を取り入れて、章を通して明らかにしていくという流れ、問いを、探求課題として設定している。これはとてもいいと思った。また、毎時間の終わりに、学習内容を確認する「チェック」、学んだことを基に考察する「トライ」、これが1項目ずつ右ページ下に設けられていて、習得すべき知識、事項を整理して、それをまた活用して考えたり、あるいは表現したりするのに役立つと思っている。ほかにもあるが、既に各委員がお出しいただいたので省かせていただく。

公民的分野については、全員が東京書籍を推しているのので、東京書籍を公民的分野の教科書として採択したいと思うが、ご異議ないか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、社会（公民的分野）においては、東京書籍を採択する。
次に、地図である。新井委員、お願いします。

新井委員

地図は、1番目は帝国書院、2番目は東京書籍である。

まず、帝国書院。色調が全体的に明るく、見やすい。折り込みが、目次と世界の国々、日本列島、東北・北海道地域の3か所に設定されている。ほとんど見開きページでまとまりのある学習内容となっている。巻頭の地図帳の使い方を理解・学習することが地図を活用する上で大切であることが示されている。分からないところがあればここに戻れば明らかになる。東京都周辺の地形では、練馬区全体が掲載されている。としまえん、石神井公園などが読み取れる。興味・関心を引き出すことができると思う。巻末の諸資料、統計も充実している。補助資料としての役割を果たしてくれると思う。地図の見やすさ、見開きページの編集、巻頭・巻末の資料が充実している。

次に東京書籍である。巻頭の「この地図帳の地図記号・活用方法」は、次の5つの用途に分かりやすくまとめられていて、この地図帳の特色が見られる。「地図記号を確認しよう」、「さくいんの使い方を身につけよう」、「一般図を見てみよう」、「テーマ地図やグラフ・写真などの資料を見てみよう」、「歴史や公民で活用しよう」。折込ページが何か所か設定されている。この東京書籍も、東京の中心部のところで練馬区全体が掲載されていて、としまえん、光が丘公園などが分かる。「日本全体」とのテーマの下、次の内容で数ページにわたってまとめと振り返りに活用できるところがある。日本の自然環境、日本の農林水産業、日本の工業、日本の生活・文化などである。巻末には、世界と日本の統計資料が充実している。以上である。

中田委員

地図は、帝国書院を選んだ。縦長でインデックスも大きく見やすく、地図の中での文字の大きさや濃さ、バランスがとてもよく、取り扱いやすさを感じた。地域の名産品がイラストで描かれているため、一目で分かる。また、平野部、山間部の色分けがグラデーションになっていて大変きれいに思った。巻末は自然災害、防災、統計資料と幅広く地図を活用したものが載っていた。QRコードも動画となっているため、家庭での自学自習に適していて、時代に合ったものだと思う。卒業した後も家庭で共有して保存版として使えそうなものだと思う。以上である。

高柳委員

私は、帝国書院を推薦する。重視したのは次の3点である。1つ、生徒が興味・関心を持って積極的に地図を活用し、地図の読図や作図、景観写真の読み取り、日本の諸地域や世界の国々に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身につけることができるように工夫されている。2つ、生徒が、地理的な課題を追求するにあたり、日本や世界の諸地域の特色、地形、気候、人口、防災、産業、資源、生活、文化などの資料が分かりやすく効果的に工夫されている。3つ、調査や観察の結果をまとめる学習では、地図や資料を有効に活用して、地理的な事象の説明や意見交換をする学習活動をするために工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、どちらも全く優劣つけ難かった。中身については今までおっしゃったことと同じである。ただ、同サイズのほうがいいかと思って東京書籍を選んだが、帝国書院でも、保存できる可能性もあるので、どちらでもいいと述べさせてほしい。

教育長

地図は2社しかないので、どちらかということになるわけであるが、各委員のお話をお伺いすると、帝国書院が支持されたかと思っている。私も帝国書院を推薦する。坂口委員はどちらでもというようなご意見を伺ったので、地図については帝国書院ということによろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、地図は帝国書院を採択する。
続いて、道徳に移る。中田委員、お願いします。

中田委員

学習指導要領において道徳の授業で学ぶ内容が、自分自身に関する事、人との関わりに関する事、集団や社会との関わりに関する事、生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事となっている。目次の後に、1年間で学ぶこととしてその内容をしっかり提示していて分かりやすくなっている教科書であること。また、道徳では教材を読んでどんな風に思ったのか、そしてほかの生徒はどのように感じたかの話合いを持つ時間が大切と思っているので、人よっての捉え方の違いを知ることが大事な教科だと念頭に置いて選んだ。

1番が光村図書で2番が東京書籍である。

内容に関しては、「道徳の授業を始めよう!」という導入のページに記載されていて、さらに22のキーワードで考えたことが振り返ることができるようになっている。学んだ教材を後から振り返ってみるときに、目次を見てすぐ分かるようになっているため、テスト前にもう一度読み直したときに、授業中に気づかなかったことでも別の発見や見方ができると期待されると思う。また、教材に入る前に、「道徳で何を学ぶの?」「どうやって学ぶの?」と、これから学ぶ準備として文章とイラストを使った説明をしていて、見通しを持って授業に取り組めるように配慮されている。1年間を3つのシーズン、「自ら考えて」「広い視野で」「共に学び合いながら」に分けている。さらに1つのシーズンの中がテーマを持った幾つかのユニットに分かれていて、読みたいものを選びやすくなっている。文字や色の配列などがすっきりしていて、読みやすいという点もあった。「深めたいむ」というグループで相談する教材が1年間に4つ入っていて、生徒同士で話し合える内容も組み込まれていて、対話的な学習の時間ができるよう構成されているのもいいと思った。

2番目の東京書籍である。巻頭ページに「話し合いの手引き」として、グループで話し合うときの手順が載っていた。その中に「司会カード」というのがあり、司会者が参考にできる文が載っている。「これから話し合いを始めます。まず何々さん、自分の考えを発表してください。」から始まり、質問の投げかけ方もある。グループの中で話し合うといっても、なかなか発言することや話を広げていくことは難しいと思う。進学してクラスにもまだなじめない中、この「司会カード」というのが有効かと思った。みんなが画一された司会をするのではと心配する方もおられるかもしれないが、私自身発表するのが苦手だったため、このようなちょっとした配慮があるといいと思った。その上で慣れていって自分なりの発言の仕方でも学んでいけばいいと思っている。また、教材に「考えよう」「自分を見つめよう」と問いかけがあり、振り返りができるようになっている。「つぶやき」というメモ欄も設けてあるので、感じたこと、気づいたことをすぐにメモ

が取れるのもいいと思った。「アクション」として、教材に沿ったロールプレイングもあり、実際に演じてみるによりさらに授業の内容を深く学べると考えられる。以上である。

高柳委員

私は道徳について、1番は学研みらい、2番は日本文教出版を推薦する。

その理由であるが、1つ目は、生徒が主体的に道徳の学習を行い、人間としての生き方を考え、自立した人間として家族や友達、周囲の人々とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができるように教材が工夫されている。2つ目は、生命尊重、いじめ防止、科学技術の発展と生命倫理、社会の持続的可能な発展、家族愛、情報モラルなどの現代的な課題について、生徒が身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てるために適した教材が多くある。その他、教材については、人間尊重の精神にかなうものであり、生徒が教材から強く感銘を受け、道徳の内容項目について深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるためにふさわしいものであるということである。以上である。

坂口委員

私は1番に光村図書、2番に学研みらいを挙げる。

光村図書は、全編にQRコードがある。それぞれ内容にふさわしい声の語り手によって音声化されていて、非常に効果的である。各内容も自己を知る、広い視野や周りを見る、大人たちを見る、そして、協働・共生といった生き方を探求していくといった、一貫した編集者の意図が分かる。1・2年生は同じような進め方であるが、3年になると、志を持つこと、これからの自分の生き方についてしっかり考えるために、大人たちの生き方を見てみようという流れになっている。そして3年生の186ページであるが、二十歳、三十歳、百歳までの白紙の年表がある。ここに子供たちは何を書き置いていくのだろうかという興味が湧く。全体的に小型サイズで非常に手に持ちやすいのもこの図書がいいと思う理由である。

学研みらいについては、高柳委員が言われたことと同じであるが、忘れられない作品があったので、1つ紹介する。オリジナル作品なのだが、「亡き母へのトランペット」という題で、東日本大震災による津波で倒壊した我が家のがれきの前で、トランペットを手にして涙をぬぐう少女の写真が載っている。これは新聞で紹介されたのだが、私もそれを見て大変強く印象に残った。その後のエピソードで、東京のコンサートに招かれて、大ホールでオーケストラと一緒にトランペットを演奏したという文章があった。本当に胸を打つ作品になっている。そしてこの少女がどういうふうな生き方をしたのかとか、そういうことまで気にかけて読ませていただいた。

ただ、1つ申し上げたいのだが、パラスポーツで義足の選手が、新記録を作った瞬間の写真が載っていた。これは、何度もしっかり見たら確かにジャンプしている瞬間だが、もっと分かりやすい写真を使ってほしいと思った。あえて申し上げておく。以上である。

新井委員

私は、1番目は光村図書で、2番目が日本文教出版である。

まず、光村図書の理由である。巻頭に、理解しやすい言葉で授業、学習の流れが載っていて分かりやすい。「考えよう」、「見方を変えて」、「つなげよう」という手引きが用意されている。まず、「めあて」について考え、次に別の立場や視点で考え、他教科や日常生活との関わりにつなげる。巻末に学びの記録があり、振り返り、まとめとして活用できる。「教材別テーマ一覧」では、大切な七つのテーマと教材との関連が一覧表で示されている。「深めたいむ」では、自分のよさとお互いのよさの発見から、会話などを通して深い学びにつながる重要な内容と考える。ほかにもよりよい決まり、いじめをなくすために大切なことは何か、携帯・スマホのトラブルなどのテーマがある。授業の工夫へのヒントがある。輪島塗の椀が完成するまでのいくつもの工程に感動した。改めて伝統芸の技に心を揺さぶられた。深い学びである。巻末の「道徳の学びを振り返ろう」の谷川俊太郎さんの「ありがとう」の詩は心に残った。

2番目の日本文教出版である。巻頭に、「道徳科での学び方」が分かりやすい言葉で示されている。「気づく」、「考え、議論する、深める」、「見つめる、生かす」、これらの言葉は主体的・対話的で深い学びにつながると考える。この教科書で学ぶテーマがより広く、深く考え合うテーマであると考え。いじめと向き合う、命の大切さ、安全に生きる、情報モラル、環境、よりよい社会と私たち、伝統文化、国際理解、先人に学ぶ、スポーツなどである。さらに、「プラットフォーム」が深い学びのヒントとして理解の助けになる。タイトルは、「「いじめ」って何?」、「怒りの感情と上手につき合おう」、「毎日を安全に過ごすために」、「日本の伝統を受け継ぐ」などである。巻末の「明日へ」の詩は、生徒の心を揺さぶると思う。以上である。

教育長

ありがとう。

私は1番目に光村図書、2番目に学研みらいと思っている。道徳については、考え、議論するという授業を目指すうえで適切な内容となっているかどうか、また登場人物の心情を理解するだけではなくて、生徒たちが自分のこととして考えられる内容になっているかどうかを注目して選んだ。

光村図書については、相互理解、寛容に関する内容・項目が全ての教科書発行者の中で一番多くて、3年間で7教材取り扱っている。他者を理解することの大切さというものに特に重きを置いていると思った。また、2年生の教科書で、「嫌われるのを恐れる気持ち」、3年生の教科書で、「命と向き合う」という教材がある。こういうのを見てみると、問題解決的な学習に特化した教材を複数掲載していて、光村図書が全体的なバランスもいいし、一番いいかと思った。

2番目の学研みらいについては、取り上げる教材が非常にいい教材が多いという印象を持っていて、先ほど坂口委員がおっしゃられたが、読んでいて感動して、いいと思った。

さて、道徳については、2番目はそれぞればらつきがあったが、私も含めて5名のう

ち4名の方が1番目に光村図書を推薦している。高柳委員は学研みらいということであったが、特にご異存がなければ光村図書を採択したいと思うが、いかがか。

高柳委員

特に異存はない。

教育長

高柳委員からも異存はないということを得いたので、道德については光村図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

まもなく12時であるが、次の数学までやらせていただきたいと思う。数学が終わったら休憩とさせていただく。

数学は高柳委員からお願いする。

高柳委員

数学については、大日本図書と数研出版を推薦する。

重視したのは次の3つの観点である。1つ目は、生徒が、数学がよく分かるようになった、できるようになったというように、学習意欲を高めて、数量や図形等について基礎的な概念や原理、法則を理解したり、数学的に表現、処理する技能を身につけたりできるように教材や資料が工夫されている。2点目は、数学的活動の楽しさや、数学のよさを生徒が実感して、数学を日常生活や学習に生かそうとする態度を養い、数学を学習することの意義や必要性を感じ取ることができるように、教材や資料が工夫されている。3点目は、生徒が問題解決的に学習して、その過程や結果を評価・改善する活動や、観察や操作などの数学的活動を通して、数量や図形などの学習の理解を深める活動および数学的活動の過程をレポートにまとめ発表する活動を効果的に設定している。以上である。

坂口委員

私は、数学は1番に数研出版、2番に啓林館を選んだ。

数研出版は、どんなふうに語りかけたら子供たちが理解できるだろうか、ついてくるだろうかという豊富な実例、体験を検証して、分かりやすい教科書づくりを心がけているように理解できた。例題を解くためのプロセスが非常に丁寧に示されていて、目で追っていくと、あ、そうかという声が聞こえてきそうな親切な導き方だった。さらに教師の指導に左右されずに考える数学の発想を広げていって、自分の視点を持って、数学の喜びを体験していく仕組みになっている。それから、文字式の学習の前段階として、数

学で使われるアルファベット、例えば だとか だとか特殊文字の一覧表があったのは大変親切だと思う。

啓林館についても、やはり文字式などの例が豊富である。それから、図形の扱いが丁寧で、難しい話から入らず、非常に分かりやすくなっていると思った。安心して課題に取り組める。非常に数学の教科書としての信頼感があるものだと思っている。

新井委員

数学は、まず第1番目として教育出版、2番目として啓林館、3番目として数研出版の3点を挙げさせていただく。

理由であるが、教育出版は巻頭と巻末にこの教科書の特徴が出ている。この教科書では、巻末に正四面体や正二十面体などの展開図がある。はさみを使って折り込んで、実際に完成させることができる。問題解決させて、そして実際に手を動かして完成させることは、数学的な物の見方、考え方を学ぶうえで重要と考える。巻頭に印象的なメッセージがあった。「算数から数学へ、学びの世界をひろげよう」のところである。「数学」は算数の数や図形など範囲をひろげて、より筋道を立てて考えていく教科です。これまでよりも難しくなるのではないかと心配しているかもしれませんが、大丈夫です。皆さんが一步一步着実に学習を進めていけるように、この教科書を作成しました。」というメッセージが印象に残った。数学的な考え方のまとめが重要ではないかと思う。問題解決を進めるときの考え方、問題を発展させるときの考え方、問題を明確にしたり、解決の手がかりをつかんだりするときの考え方、表現に関わる考え方、物事を分かりやすくするときの考え方。以上の考え方は、読解力向上のヒントが考える。

次に、啓林館である。この教科書の特徴は、「みんなで学ぼう編」と「自分から学ぼう編」に分かれているところである。「みんなで学ぼう編」の学びは「章の学習」、「章末問題」、「もっと練習しよう」で構成されている。章末問題は、「学びをたしかめよう」、「学びを身につけよう」の中で確認する。章は1章から8章までの内容である。「数学ライブラリー」として様々な内容があり、章の学びをサポートしている。素因数分解、計算のしくみ、平方根の値の覚え方、循環小数と分数などである。振り返り、まとめ、確認に活用できる。「自分から学ぼう編」は、「学びをいかそう」、「力をつけよう」、「学びのあしあと」で構成されている。さらに、力を伸ばしたり深めたりする問題などを取り上げている。ここは全員が一律にやる問題ではない。主体的で深い学びにつながる内容と考える。

最後に、数研出版である。この教科書の特徴は、全体を通して分かりやすく丁寧に編集されているところである。巻頭には、「この教科書について」、「学習の進め方」、「ノートづくり方」、「レポートを書こう」などで、数学の見方、考え方などがまとめられている。各章の終わりにはまとめがあり、章のまとめと振り返りができる。また、「考えよう」は深い学びの内容として大切と考える。確認問題は、基本的な内容の確認となっている。巻末の「チャレンジ編」は、問題解決学習として重要と考える。以上である。

中田委員

数学は、1番に東京書籍、2番に数研出版を選んだ。

東京書籍は、算数から数学という教科名が変わるだけで身構えているであろう1年生の教科書に重点を置いて見た。正負の数に入る前に0章として小学校の復習から、九九表というなじみのある形式、また身の回りのことを扱っている。淡い色遣いをする事によって、数学の堅苦しいイメージを緩和させているように思った。章の始まりのページで問題提起し、次ページの節に入るときには見開きでイラストや図を使って予測を立てることでワンクッション置き、これから学ぶ見通しを自然に作っている。「考えてみよう」、「調べてみよう」の文字も大きく色分けされ、数字ばかりが並んでいる印象が少なかった。「数学のまど」、「学びをひろげよう」も楽しく読める内容であった。ただ、緑色でQとして問題を提示しているのが1年生の時はいいのが、学年が上がるにつれて、色分けがかえって気になるように思った。

その点で、2番に推薦した数研出版である。全般的に派手な色や大きな写真がないため、数字が見やすく思った。文字の行間もちょうどよく、また、用紙が他社と比べ少しページュがかっているのに目に優しく、明るい電気の下でもまぶしくない配慮がされているかと思った。また、皆さんがおっしゃっているように、答えの出し方の例が丁寧で分かりやすく、見やすくなっていた。生徒の生活に身近な題材を使っているのがいいと思った。また、この会社だけ別冊の「探求ノート」があったので、自宅学習があるときには活用できると思った。以上である。

教育長

ありがとう。

私は、1番が数研出版で、2番が東京書籍であった。

数研出版は、大変分かりやすく丁寧で作ってある教科書だと思っている。小学校の算数と中学校の数学というギャップがあるが、これをきちんと適切に乗り越えていかないと、中学校の勉強全体がつまづいてしまうという傾向もある。数学の占める位置というのは中学校の場合は大変大きいと思っているので、そういう視点で読んだ。委員からお話があったように、丁寧に作ってあって、項目ごとに振り返りの学習がしやすい工夫がなされているところもとてもいいと思った次第である。

東京書籍は定評のある数学の教科書である。東京書籍についても、数学ということがいかに日常の生活の中にどうやって生かされているのかということにしっかり視点を置いて教科書を作られていて、生徒にとっては非常に主体的に学ぶ意欲をかき立てるものだろうということで、2番目に挙げさせていただいた。私からは以上である。

数学についてはそれぞれあったが、数研出版を全ての方が1番目か2番目、あるいは3番目に推されているので、数学については数研出版を採択したいと思うが、ご異存ないか。

委員一同

はい。

教育長

よろしいか。それでは、数学は数研出版を採択する。

ちょうど12時を回った。ここで休憩とさせていただき、午後1時に理科から始めさせていただきますと思う。

それでは、休憩とさせていただきます。

(休 憩)

教育長

それでは、教育委員会を再開する。引き続き、中学校教科用図書の採択を行う。午前中に数学まで終了したので、理科から始めたいと思う。坂口委員、願います。

坂口委員

理科については、1番は東京書籍、2番は学校図書とした。

東京書籍は、A4型で、細長い形態になっている。ページ内容が広がった分、図表や写真、参考資料がテーマごとにまとまっていて、次ページにわたる部分が少なくなり、分かりやすい編集である。理科室の決まりや実験を伴う科目の安全のための対応はしっかりしている。1年生では、身近な二酸化炭素から気体とは何だろうという理科的な考察に発展していくやり方である。二ホニウムの発見と命名が2年生の学習の中にあり、3年生では微生物の世界に入って生命の連続性を学ぶ。1年生の生物からどんどん学びが深まっていくことが分かる。地球温暖化の問題では、人はどういうことを守っていけばいいかなどの学習ができる。全体的に記述、説明が丁寧で、イラストやデータなどをたくさん使っているし、理科への興味を起こしていると思う。

学校図書は、暮らしの中で理科の学習がどのような位置を占めるか、応用的な視点からしっかり示されている。できるだけ文章を少なくし、イラストや写真を多用していて、各テーマへのアプローチを分かりやすく工夫している。「理科のトリセツ」が丁寧である。あれもこれもと盛りだくさんにしないで、適切であるのがいいと思う。いつも使っているのになかなか気にしていない存在である電気について、「あたりまえの電気を見直せ」のようにいいタイトルで、電気の仕組みやエネルギーの力を学ぶ喜びを知ることができる。また、「地球の外に目を向けよう」というタイトルもあり、子供たちが抵抗なく理科の学習に入っていける工夫がされていると思う。以上である。

新井委員

理科は1番目が学校図書で、2番目が東京書籍である。

学校図書は、巻頭が充実している。目次と「理科のトリセツ」がテーマである。目次では、章ごとの取組を紹介している。章末は章のまとめとなっている。この教科書の特徴は、「理科のトリセツ」というタイトルの内容である。分かりやすく、日常で使っている言葉で紹介されている。この教科書を使っての理科の学習について説明されている。3つの言葉、「知って、使って、役立つ」。まさにこの3つの言葉に理科の学びが集約できる。さらに、「探究する」、「世界的な課題を解決する」、「探究とは、気づきとふり返りの連続だ!」など、探究活動の注意点も興味深い。これらの言葉から、理科の学習の目的はいかに探究心を引き出して育てるかだと考える。「どうやって理科を学ぶの?」の

なかの「実験室を使うコツ」は理解しやすい。「この自由研究がスゴイ！」も参考になると思う。そして、「理科のトリセツ」のまとめとして、「主体的・対話的に、深く学ぶ」について、「主体的に」は「行動量」、「対話的に」は「話し合い」、「深く学ぶ」は「そうか！わかった！」とある。巻末の資料では、「実験に使う主な器具」、「実験器具の操作」、「薬品のあつかい方」、「試験管のあつかい方」などが写真、イラストで説明されている。

次に、東京書籍である。写真、図表とも鮮明である。単元、章、節という学習の流れで、「課題に対する結論を表現しよう」、「君ならどうする？」とのテーマで、探究心を育て、主体性、自発性を引き出す工夫がされている。単元では「学習内容の整理」として、基礎、まとめの振り返り、また「確かめと応用」とその活用編となっている。「学びを広げよう 自由研究」につながる編集となっている。章末では、「各章の課題に対する結論の例」、「学んだことをチェックしよう」、「学んだことをつなげよう」とのテーマになっていて、その章の振り返りとまとめと考える。以上である。

中田委員

理科は、1番が東京書籍で、2番が大日本図書である。

東京書籍を選んだ理由である。1年生の巻頭ページで、日常生活の1日の流れの中で発見できる科学というページがあり、身近なものから親しみやすく教科に取り組めるよう配慮されていると思った。何気ない風景や生活の中の一場面が実は科学だったのだと発見することによって、実験をする科学という概念が和らぐように思う。そして、親しみを持たせた後で、「理科室の決まり」のなかで、やってはいけないことの3原則として、「ふざけない・走らない・あわてない」と注意喚起し、科学の怖さも知らせている。単元が始まる見開きの写真も大きく、インパクトがあると感じた。他社と違い、縦長で使いつらいかと思ったが、実際に手に取り中を見ると、視線が中央に集まり、見やすさも感じた。問題発見、課題と問いかけも大きく提示されていて、これから学ぶべきものを意識づけるのには効果的に思った。

大日本図書の推薦理由である。1年生の最初に、「これまでに学習したこと」を写真で表しているため、ぱっと見て分かりやすい。また写真の掲載が多いため、親しみやすく取り組める工夫がされていると思った。単元の最初に、その章で学ぶ内容を記載していて、見通しを立てて学べるように配慮されている。問いかけの後に吹き出しを使用して対話形式で観察のポイントを教えてくれている。「サイエンスプレス」、「科学のあしあと」、「くらしの中の理科」など、理科に興味を持たせる内容のものが随所に組み込まれていた。以上である。

高柳委員

理科の教科書については、調査研究した観点のどれを重点にするかによって多少違いがあるのだが、1番は東京書籍、2番を教育出版と大日本図書を推薦する。

調査研究するにあたって、次の3つの観点を重視した。1つ目は、生徒が理科の学習に主体的に取り組むことができ、自然の事物や現象についての理解を深めるとともに、観察、実験、事故防止などの技能を身につけることができるように、教材や資料が効果的に工夫されている。2つ目は、生徒が興味・関心を持って観察、実験、実習を行い、

問題を見だし、計画する学習や観察、実験結果を分析、解釈する学習および科学的な概念を使用して考えて説明したりする学習が充実するように工夫されている。3点目は、平成元年度練馬区学力調査研究委員会研究報告書に記載されている中学校理科における授業改善の手立てである実験結果を考察して、結果に到達するための要因を整理する学習、学習内容と日常生活の関連を図る学習、観察や実験を振り返り、結果など記述したり説明したりする学習を重視して具現化できるような教材が多く設定されている。以上である。

教育長

ありがとう。

私としては、理科は、子供たちが探求するということにいかに関心を持って、日常生活や社会との関連ということが教科書の中にどれだけ出ているかというようなこと、そして、理科の面白さや理科は役立つのだという有用性をいかに出せているかということに着目して選んだ。

私も東京書籍が1番よかったと思う。東京書籍は巻頭や巻末に特に身近な自然現象から考えさせるような場面を設けているし、それぞれの事象の写真等も掲載されて大変イメージしやすいと思った。また、漫画などを有効に活用して、授業の進め方が誰にも分かりやすくできるようになっていた。それに、見開きの指導時数の目安を1時間として、全ての節を見開き単位で構成して授業の見通しを立てやすい構成になっていると思う。

2番目は、私は啓林館がよかったと思っている。単元の初めに好奇心を誘う大きな写真を掲載して、単元の内容がイメージできるようになっているし、QRコードで動画を引き出せるのがいいと思った。また、理科の見方、考え方を働かせた趣向や表現の絵がキャラクターの発言で掲載されていて、生徒にはとても親しみやすいのではないかと考える。

さて、各委員から推薦があったが、新井委員以外は東京書籍を1番に推しておられた。新井委員も2番目に東京書籍を推薦されておられるが、特にご異存がなければ、東京書籍としたいと思うが、いかがか。

新井委員

異存はない。

教育長

それでは、理科については東京書籍ということでよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、理科は東京書籍を採択する。

次に、音楽であるが、まず、音楽（一般）である。新井委員から願います。

新井委員

音楽（一般）は、1番目は教育芸術社、2番目は教育出版である。

まず、教育芸術社であるが、巻頭の「伝統をつなぐ」の中で、作者の「さまざまな場面でたくさんの「分からない」に出会うでしょう。そのときはまず、分からないことを喜びましょう。それが、おもしろさを理解する第一歩になるはずです。」との文章があり、興味深い。音楽教育だけでなく、生活、人生全般につづるヒントが表現されていると思う。この内容の答えを教科書からぜひ読み取ってみてほしい。中学生の音楽の学習内容としては、表現、歌唱、創作、鑑賞がある。「赤とんぼ」「君をのせて」「ソーラン節」「仰げば尊し」など、実際に歌ったことのある曲もあるので親しみやすい。巻末の資料がかなり充実している。「音楽を形づくっている要素」「耳でたどる音楽史」などである。音楽史は日本と世界の音楽の流れが理解できる。

教育出版であるが、目次において学習活動内容が「うたう、つくる、きく」であることを示している。1年生の教科書では、親しみのある「夏の思い出」「赤とんぼ」「明日を信じて」などの曲を通して、歌う、聴くを学ぶ。あわせて、指揮も行う。「ソーラン節」など日本語の抑揚のある歌も歌う。巻末には郷土の民謡に用いられる楽器、三味線、尺八、三線などが写真と一緒に紹介されている。また、弦楽アンサンブルに用いられる楽器、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスも掲載されている。2年生、3年生の教科書も「うたう、つくる、きく」を軸に展開される。日本の歌、クラシック、郷土の民謡などを通して学ぶ。巻末の資料として、オーケストラの楽器のパートごとに、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器が写真入りで掲載されている。また、オペラ、ミュージカル、バレエ、文楽、歌舞伎、能などさまざまな舞台芸術が紹介されている。以上である。

中田委員

私は、教育芸術出版を推薦する。巻頭ページで、日本の伝統である狂言師の野村萬斎氏を取り上げていて、内容は生徒たちがよく知っている曲を多く扱っていると思った。「深めよう！音楽」で対話的な学習を進める中、生徒同士で音楽の特徴について調べることにより、旋律の特徴やパートの役割を小節ごとに書き出し、理解が深まるように考えられていると思った。「プラスアルファ この頃、日本では...!？」という項目で、他教科の日本の歴史とつなげて時代を知らせてくれているのが、生徒にとって理解が深まると思った。巻末では、音名、階名、コードネームなどのまとめが記載されていて、再確認もしやすくなっていると思う。以上である。

高柳委員

私は、音楽（一般）について、教育芸術社を推薦する。重点にしたのは、1点目は、生徒が音楽教材に対して親しみが持てたり意欲を高めたりすることができ、歌唱表現、創作表現に関わる知識や技能を得たり、生かしたりしながら、表現活動を創意工夫できるように、教材や資料が工夫されている。2点目は、生徒が曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにするため

に、効果的な教材や資料が工夫されている。3点目は、生徒が学習の狙いを確実に把握して、主体的、協働的に学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験し、音楽に親しむ態度を養うことができるように工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、教育出版を選んだ。どちらもよいと思っているが、あえて教育出版を選んだのは、「歌うための準備」という形で、姿勢や呼吸、口の形、基本的な導入から始まっている。音楽学習の第一歩かと思う。それと、「私たちのくらしと音楽」のところで音楽療法に触れている。これから幅広く音楽に触れる機会があり、このような音楽の生かし方は非常に大切なポイントだと思う。ただし、教育出版の中でとても残念に思うところがある。「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」を並べて紹介してあるのだが、「ソーラン節」の歌詞は最後まで全部書いてあるが、「かりぼし切り歌」は楽譜の途中で中途半端に終わっているのが非常にもったいないと思った。しかし、皆さんの評価でどちらに決まっても構わないが、あえて教育出版を選んでおく。

教育長

ありがとう。

私は、教育芸術社を選んだ。理由は既に各委員さんがおっしゃったことに尽きるが、学習目標や、旋律、強弱、形式、構成といった「音楽を形作っている要素」といった項目を分かりやすく構成していると思っている。また、指揮者体験や能の学習における謡の体験など、体験活動を上手に取り入れている。その他にも皆さん方おっしゃったとおりで、私としては教育芸術社を推させていただきます。

中田委員

先ほど出版社の名前を間違えて、教育芸術出版と言ってしまった。申し訳ない。教育芸術社を推薦する。

教育長

中田委員から教育芸術社を推薦すると改めて発言があった。内容は教育芸術社のことをおっしゃっていたので大丈夫だと思う。

さて、坂口委員以外は教育芸術社ということであって、坂口委員からもどちらでも構わない、教育芸術社でもよいというお言葉もあったので、音楽（一般）については教育芸術社を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

続いて、音楽（器楽合奏）である。中田委員から願います。

中田委員

器楽合奏は、教育出版を推薦する。

ピアノ以外の楽器の奏法や楽譜が載っているのだと驚いた。それはどちらの出版社もそうであったが、どのタイミングで興味を持って演奏する機会が出てくるか分からないということでは、情報として得るのはとてもいいことだと思った。

教育出版を推薦した理由は、学習課題が次のページをめくったところに提示されているため、見通しを立てて授業に取り組むことができると思った。「Let's Try!」では、なじみのある楽譜が載っている。楽器の奏法の写真が大きく見やすく、またQRコードが動画のため、教科書の写真だけで分かりづらかったものでももう一度再確認することができると思った。以上である。

高柳委員

器楽合奏について、教育出版を推薦する。調査研究で特に重視したのは次の2点である。1点目は、生徒が自分もいろいろな楽器を演奏してみたいと思えるように、器楽教材に対して親しみが持て、意欲を高めることができ、器楽表現に関わる知識や技能を得たり、生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫することができるように、教材や資料が工夫されている。2点目は、生徒が学習の狙いを確実に把握して、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法や、体の使い方、友達と合わせて演奏する技能を身につけることができるように教材や資料が工夫されている。以上である。

坂口委員

私は教育出版を選んだ。器楽合奏については、教科書の紙の資料よりも、QRコードで楽器の持ち方や唇の当て方などの動画を見ることによって、学習が進むものと思っていて、比較的全ての楽器について取り扱っている教育出版を選んだ。

新井委員

器楽合奏は、教育出版を選んだ。リコーダーを中心に、ギター、琴、篠笛、尺八、太鼓、三味線などが紹介されている。和楽器、打楽器の音色や奏法の紹介、心を込めて演奏することが大切である。何が違って何が同じなのか、実際に演奏して確認してみる。様々な奏法を知り、響きを味わうことができると考える。ギターとキーボードのコード表が資料として添付されている。以上である。

教育長

ありがとう。

私も、教育出版を推薦する。理由は、もう既に皆様方のおっしゃったことと重なるので同じ理由ということにさせていただきたいと思う。器楽合奏については、皆さんが教育出版であるので、器楽合奏については教育出版を採択しようと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。
続いて、美術である。高柳委員から願います。

高柳委員

美術は、日本文教出版を推薦する。次の2つの観点を重視して調査研究を進めた。1つ目は、スケッチの学習、日本や外国のいろいろな作品、映像メディア、漫画やイラストレーションなど多様な表現形式や方法を活用したり、地域の身近なものや伝統的なものなどの材料、題材を取り上げたりして、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料を選択し、創意工夫して表現できるよう、教材や資料が工夫されている。2つ目は、生徒が絵や彫刻、デザインや工芸の教材や資料を活用して、美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を見いだして、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対し見方や感じ方を深めたりすることができるように工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、美術は開隆堂を1番に選び、その次に日本文教出版を選んだ。

開隆堂は、美術から生み出される創造性、発想力、芸術性、その思想まで全編にわたって伝えようとしていることが分かる。芸術作品を鑑賞するだけでなく、その背景などに丁寧に触れている。例えば、ピカソの「ゲルニカ」である。最後に、「これから先、未来の歴史はあなたがつくっていきます。」という呼びかけがあるが、大変すばらしく、声を出してこれを生徒たちに呼びかけてほしいと思ったほどだ。

日本文教出版も、写真が多用されていてすばらしく説得力がある。各学年の目当てがはっきりと示されている。美術教科書こそQRコードが欠かせないと思う。社会に生きる芸術の力、日常生活で感性を磨いていくためにある美術鑑賞、そういうものを位置づける教科書として日本文教出版は大変優れていると思う。

新井委員

美術は1番目は日本文教出版、2番目は光村図書を推薦する。

日本文教出版は、紹介されている一つ一つの作品がすばらしく、心が揺さぶられた。ページをめくりながら見ていて、自分も描きたい、作ってみたい、そういう気持ちになった。生徒の表現力、創造性を引き出す教科書であると考え。様々なジャンルで、中学生の作品と歴史に残る作品を対峙させて編集されている。中学生の作品が輝いている。見応えがあり、楽しい、美しい、優れたものを改めて発見した。この教科書を通して、主体的・対話的で深い学びの結果として、よりよい作品が生まれるのかと期待する。

光村図書の推薦理由である。教科書を読み終えての感想として、ページいっぱい使った大きな作品が多い。表紙の墨絵をはじめA4、折り込みでA3の絵、写真、彫刻などの歴史に残る作品が何か所に設定され印象深い。この教科書に掲載されている作品のう

ち、最も大きな作品はピカソの「ゲルニカ」である。鑑賞している少年との大きさの比較もできる。この教科書の作品の中でもっとも心を揺さぶられた作品である。巻末にある谷川俊太郎さんの「うつくしい！」という詩の中の、「ゆっくり時間をかけて、いろいろなものをみつめてみよう。うつくしさをみつける道は、そこにしかない。」との言葉が心に残った。以上である。

中田委員

美術は、日本文教出版を推薦する。美術では、教科書を読む機会がなかなか少ないと思えるため、参考資料として大きく絵が載っているものを重視した。1年生の表紙はフェルメールの絵が実物大で使用されており、かなりのインパクトがあった。燕子花図屏風と風神雷神図屏風も大きく掲載されていて、教科書で少しでも興味を持って美術館に足を運んでくれたらいいと思った。また、作者の言葉としての補足説明があり、自分の見方と違って作者の思いが興味深く読み取れると思った。以上である。

教育長

ありがとう。

私は、日本文教出版を推薦する。日本文教出版だけが3部冊構成になっているのだが、3部冊構成にすることによって豊富な題材と資料を確保することができるし、柔軟なカリキュラムが編成できる仕組みとなっていると思っている。また、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、全ての題材に造形的な視点が示されているというのも日本文教出版を推薦する理由の一つである。

さて、美術については、全ての方が日本文教出版を推薦されておられるので、美術は日本文教出版を採択したいと思うがご異論ないか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、美術は日本文教出版を採択する。
次に、保健体育である。坂口委員から願います。

坂口委員

保健体育は1番目に大修館、2番目に大日本図書を選んだ。

大修館の編集者の人たちが、生きるために必要な言葉をどのように子供たちに伝えようかと一生懸命力を尽くして作り上げたことが分かった。具体的な写真、イラスト、説明文の内容など、言葉を選んでいて分かりやすく、どのテーマも丁寧な取扱いを感じた。病の予防、感染症、エイズ、ノロウイルスなども取り上げている。今後はここに新型コロナウイルス感染症が加わることになるだろうと思う。いかに自分の体を知り、健康を意識して命を大切にするという基本を第一として、そしてその鍛えた体でスポーツの楽しみや面白みが広がっていく、体力増進への意欲が湧き、願望が実現されている、そう

いう学習で進められている。

次に大日本図書である。まずスポーツの楽しさ、その文化的な意義、歴史などに詳しく触れている。もちろん健康な生活、体の発達、思春期の変化、ストレスの対処、人との関わりと自分らしさの確立など、漫画を使ったイラストつきの平易な言葉で説明している。46ページのところにPTSD（心的外傷後ストレス障害）のコラムがあることも今の時代に必要なことと思う。また、健康と同じように産業廃棄物とか気候変動による現代の環境変化そのものにもきちんと触れていて、いいと思う。

新井委員

保健体育は、1番目は大日本図書で2番目は学研みらいである。

まず、大日本図書である。学びの目標は、「生きがいのある豊かな生活を！」「夢の実現、自己実現」とはっきりしている。目次で全体の学習の流れが明らかである。学年ごとに体育編1章と保健編2章の学習内容である。したがって、全部で体育編3章、保健編6章となる。章ごとに章末資料、「学びを活かそう」、「学習のまとめ」の構成である。章の学びの整理、振り返り、まとめに活用できる。特に、「学習のまとめ」は、その章の重要部分について丁寧に説明されていて、ありがたい内容である。1時間の学習の流れと保健体育の学び方のページは、主体的・対話的で深い学びを踏まえた内容となっている。タイトルが「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」、「活用して深めよう」である。総合的に使いやすい、教えやすい、学びやすい、分かりやすい教科書であると思う。

次に、学研みらいである。目次で学びの全体像が分かる。特徴は体育編と保健編に分かれているところである。各学年とも、学びとしては保健編の量が体育編より多いことが理解できる。両編とも章の終わりには「探求しようよ！」と章のまとめが設定されている。振り返りとまとめの内容と考えられるが、問題形式になっている。したがって、回答が重要と考える。また、このことは主体的な学びと深い学びにつながる内容と考えられる。目次にコラム欄がある。興味深い項目が並んでいる。巻末の資料で、「新体力テストの行い方」、「体力の測定とその活用」、また、内臓、筋肉、骨などの体の仕組みが表示されている。深い学びに活用できると考える。以上である。

中田委員

保健体育は、1番に大日本図書、2番に東京書籍を推薦する。

保健のほうに重点を置いて見た。大日本図書は、口絵に「心身が共に健康であるからこそ、夢をかなえるなどの自己実現ができます。」という明記があったが、まさにそうだと思った。何を始めるにしても、まず健康でなければならない。それは体だけでなく心も健康でなければならない。中学生は、体の成長に心が追いつかず、友達関係や親子関係で悩みが多い多感な時期である。そんな時期に欲求やストレスの取り方や対処法としての資料が多く掲載されていて、授業の合間や家庭でもじっくり読んでほしい内容であった。また、見開きの左ページに本文、右ページに資料という構成が大変見やすく、字を読むのがおっくうな生徒も資料に興味を持てると思う。トピックスも豊富であった。「話し合ってみよう」という活動で、対話的な学びも獲得できると考えられる。

東京書籍は、学習課題とキーワードがあり、見通しを持った学習に取り組める内容であり、統計資料が多く、視覚的にも理解しやすくなっている。心と体の関わり、ストレスによる健康への影響のイメージ図もあり、何気なく読み進めていけるものになっていると思う。また、ハインリッヒの法則でヒヤリ・ハットの記述もあり、けがや事故の予防について、中学生のうちから学ぶ機会を持たせているのもいいと思った。巻末資料も充実していて、もう一步学びを深めることに役立っていると思う。以上である。

高柳委員

私は、保健体育は大日本図書を1番、大修館書店を2番に推薦する。

この理由として、まず1点目、体育理論の学習では、生徒が運動やスポーツの多様性、スポーツの意義などの学習内容について深く理解するとともに、自分の課題を見つけて課題解決のために思考したり、実践したりする力を身につけることができるように、教材や資料が工夫されている。2点目、保健分野の学習では、生徒が健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、それから思春期の体の発育・発達、生活習慣病や感染症の予防等、日常生活や今日的な課題について理解を深めることができ、また、ストレスの対処、包帯法や止血法などの応急手当、心肺蘇生法など、日常生活に活用できる基本的な技能を身につけ、実践することができるように教材や資料が工夫されている。以上である。

教育長

ありがとう。

私は、1番に大日本図書、2番に大修館を推薦したいと思う。

大日本図書については、皆さんそれぞれ既にもいいところをおっしゃっていただいたが、見開きの左ページに本文、右のページに資料があって、大変分かりやすい構成になっている。左ページで知識を確実に習得して、右ページで知識を活用する。または、右ページの資料から生徒に課題を見つけさせて、左ページから課題解決を図っていくなど、いろいろな学習手法の展開が工夫できるという思いがした。また、話し合うという活動を多く設けていて、生徒同士が考え、交流しながら自分の考えを広げたり深めたりする対話的な学びが大変充実していると思う。また、心肺蘇生法が折り込み3ページで写真つきで載っているが、とても分かりやすいと思った。

2番目の大修館については、先ほど坂口委員、高柳委員がおっしゃった理由と重なるが、私も2番手に推させていただいた。

さて、保健体育については、大日本図書を私も含めて4名が1番目に推していて、坂口委員も2番手に推されている。もし坂口委員にご異論がなければ、保健体育は大日本図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただく。

次に、技術・家庭（技術分野）である。新井委員から願います。

新井委員

1 番目は教育図書、2 番目は開隆堂である。

まず、教育図書の理由について。目次に「学習内容への道案内」として学びの全体像が示されている。「材料と加工の技術」、「生物育成の技術」、「エネルギー変換の技術」、「情報の技術」である。学習の扉として、基本的な考え方について、また各内容に応じた題材例が紹介されている。題材例をいくつか紹介する。不思議な本立て、調味料ホルダー、ベビーリーフ、ミニダイコン、カンタンライト、災害時に役立つライト、簡単チャットなどである。これらの学びと実践は、将来の進路、キャリアにつながるものと考ええる。各年には学習のまとめがあり、振り返りの整理ができる。巻末に「夢をかなえる技術」という内容がいくつか紹介されている。「あったらいいな!」ということで、2 足歩行ロボット、バッテリーチャージャの作り方が細かく示されている。創造性、問題解決能力、表現力などを育てる上でのヒントが示されていると考える。包丁の扱い方や切り方などについては、QRコードがついている。

2 番目の開隆堂である。目次で全体の構成が明らかである。生徒の身の回りにある4 つの技術に関するテーマについて、3 つの章立てにしてより分かりやすく編集されている。4 つのテーマは「材料と加工の技術」、「生物育成の技術」、「エネルギー変換の技術」、「情報の技術」である。3 つの内容は、基礎的な知識と技能、問題解決能力や創造力、評価し活用する力である。章ごとに実習例が示されており、理論と実践のつながりも理解しやすい。また、学習のまとめが充実している。問題形式になっていて、自己の学びを振り返り、チェックできる。巻頭のガイダンスは、次の5 つの視点から技術について要約されている。「技術の役割」、「技術の見方・考え方」、「技術と生活・産業」、「技術とエネルギー・環境」、「受け継がれ発展する技術」である。巻末の資料のコンピュータに関するすぐに役立つプレゼンテーションソフトウェア、プログラミングソフトの情報ありがたい。以上である。

中田委員

私は、開隆堂と教育図書、どちらとも甲乙つけ難かった。

技術と言えばのこぎりや金づちを使って椅子や本棚を作るというイメージだったが、今はテクノロジーという教科になっていて、「材料と加工の技術」、「生物育成の技術」、「エネルギー変換の技術」、「情報の技術」を学ぶということであった。

開隆堂は、ページ下のほうにかわいく豆のイラストで「豆知識」というのが毎回載っているのので、興味深く授業の間に息抜きとして読めそうと思った。

教育図書は、生物を育てるところで、社会や理科との教科とのつながりがあり、学んだことが活用できそうだと思った。また、プログラムを作ろうという特集ページでは、ゲームやパソコンが得意な子供が発揮できる機会を設ける教科と思っている。また、技術ハンドブックというのが別冊でついているので、保存版として活用できそうだった。

どちらが1番か2番か甲乙つけ難かった。

高柳委員

私は、技術分野について、開隆堂を推薦する。重視したのは次の観点である。1つ目は、日常生活や社会で利用されている材料加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術の学習について、生徒が興味関心を持って主体的に学び、学習内容の理解を深めて木材や金属などの材料と加工、生物の育成、エネルギー変換、コンピューター操作、プログラミングによる問題解決などの技能を身につけることができるように、教材や資料が工夫されている。2点目は、身近な生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし、課題の設定、設計や計画、製作や育成、評価や改善などの学習活動を行い、課題を解決する力や技術を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養うことができるように、教材や資料が工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、開隆堂のみを選んだ。開隆堂の4つの分野ごとの丁寧な扱いは非常に分かりやすい。裏表紙の扉で「技術」の未来は、私たちの手で」と呼びかけている。技術は多岐にわたっていて、加工技術、生物の育成とその技、エネルギー変性の技術と、情報の技術は限りなく広がっていく。しかし、その全てが生活を支えてくれているし、安全であることが求められている。技術の学習の域は広いが、二次元コードの動画による学習も生かしていく必要があるだろうと思いながら、教科書を見ていた。

教育長

私も開隆堂である。技術分野は様々な視点があると思うが、身近な製品を例にして、技術の見方、考え方を身につけられるかどうか、問題解決の流れをきちんと追っていかれるかどうか明確に示されていると思っている。

教育図書を推す方もいらっしまったが、全ての方々が開隆堂を推薦なさっておられるので、技術分野においては開隆堂を採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、技術・家庭（技術分野）は開隆堂を採択する。

次に、技術・家庭（家庭分野）については、中田委員から願います。

中田委員

家庭科も甲乙つけ難かったが、1番は開隆堂、2番は教育図書を選んだ。

家庭科の多岐にわたる内容に驚いた。自立と共生という大きなテーマがあり、そのために何を学ぶのか、生活的自立、精神的自立、経済的自立が、他者との共生、自然との共生、地域・社会との共生とつながるということを学ぶ教科となっている。言葉にする

ととても難しいが、それを中学生が学ぶときに見やすく分かりやすいものを選んだ。3社の中で家族、家庭生活から始まっていたのが開隆堂と教育図書であった。

開隆堂を選んだ理由である。單元ごとに課題があり、問いかけをしているが、内容が具体的で分かりやすいものになっている。例えば、「どのような野菜料理を食べたことがありますか?」、「体操着を洗濯したことはありますか。」などで、文字やイラストのバランスもよく、調理手順や洗剤の種類、製作の基礎・基本が見やすくいいと思う。こちらも技術と同様、ページ下に豆知識が載っている。巻末は「災害から「いのちと生活」を守るために」として資料が載っているが、備えとしての知識のために重要なことだと思う。なお、東京書籍にも防災・減災手帳があった。

2番の教育図書を選んだ理由である。巻頭ページに年中行事としてのカレンダーがあり、希薄になっている日本の伝統行事が載っていていいと思う。いろいろな野菜の切り方や洗濯の表示は大きく見やすい。また、学習の初めに「めあて」と「キーワード」があり、最後に振り返りとして「確認」と「私の学び」を設定していたが、全て達成するには時間が足りないくらいに思えるほどであった。巻末の「暮らしの中のマーク・ラベル」は、日常でよく目にするものがどういう意味なのか知るにはとてもいい資料だと思う。以上である。

高柳委員

家庭分野については、開隆堂を推薦する。理由の1点目は、家族と家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境の学習内容について、生徒が興味・関心を持って主体的に学び、基礎的な理解を深めたり、日常食の調理や布を用いた製作などの技能を身につけることができるように、教材や資料が工夫されている。2点目は、家族と家庭や地域の中における生活の中から問題を見いだしたり、課題の設定、計画、調理や製作などの実践、評価、改善などの学習活動を行い、課題を解決する力や、生活をよりよく工夫し、創造しようとする実践的な態度を養うことができるように教材や資料が工夫されている。以上である。

坂口委員

教育図書と開隆堂を選んだ。どちらも本当に優劣つけ難いが、教育図書から説明させていただく。

教育図書は、家庭の一員として具体的な家族との会話、家族を思いやる考え方などと向き合う。家庭内の仕事を知り、男女共同参画を思い、家族とのコミュニケーションの改善を考える。そうして初めて地域・近隣との関わりを知り、協働でワークすること、諸先輩との会話が始まる。そのあと、地域にいる幼児のことに目を向けるというようになっている。おやつとか遊びを理解し、どれをとっても思春期の中学生にはどちらかという苦手なことだらけだと思う。そこに触れて自分を容認し、確立させてこそ社会の一員となることを自覚させている仕組みになっている。そして、生きるための食事、健康な体作り、調理にも挑戦し、地域の食文化を知ったり、衣服を選ぶこと、衣服を手入れすること、消費者としての学びをする。消費者としての権利と契約の決まり、クレジットや消費者トラブルのことを知り、あるいは大好きなチョコレートの価格の成り立ち

を思い、独り立ちすることはたくさんの決まりから成り立っているということをだんだんと分かっていくようになっていく。文章はできるだけ少なく、イラストや漫画、写真で説明してあるのが教育図書だと思う。

開隆堂も同じように家族、家庭、地域の把握から成る。家族や地域社会の仕組みに触れて、外国籍の家族も含めた多様な文化で地域が成り立っていることを知る。中学生にとって家族との距離感は微妙な関係である。地域には里親家庭というものもあるし、子供たちを見守る地域の高齢者への気づきがある。それから自分の幼年時代を振り返ってみる。保育園に出向いて触れ合いから学ぶ体験、学校に小さい子たちを招いてもてなすときの気づき、どれも大変貴重な時間となっている。食の学習では、実物大の写真を見開きで大きく広げて、1日に必要な食のバランスは分かりやすくインパクトがある。ガス台の使い方、郷土の料理、地方の食文化の紹介、そしてここにも消費者教育があり、家庭ごみが出てくるとその問題も必要な学びであることを知る。最後に、キャリア教育にも触れていて、いいと思った。興味・関心を持った職業について考えさせたり、バランスが大変よくできた教科書となっていると思う。

新井委員

1 番目は開隆堂、2 番目は教育図書である。

まず開隆堂である。巻頭の目次に学びの全体像が示されている。学ぶべき学習の大綱が理解できる。大項目としての「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」、「生活の課題と実践」は、まとめと振り返りを通してそれぞれの課題に対しての実践例が紹介されている。さらに「災害から「いのちと生活」を守るために」は重要な内容と考える。実践例、具体例がいくつか紹介されているのはありがたい。また、学習のまとめが各項目の振り返りとして活用できる。調理実習例には全34個の調理方法、Q & Aがある。生活の課題の実践の具体例、実践例は、次の学びにつながる内容である。

教育図書である。巻頭に目次と大項目が示されている。次の内容である。「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」、そしてそれぞれにいくつかの章があり、「章末のまとめ」とともに「学びを生かそう」というタイトルで活用につなげる内容で編集されている。「年中行事と私たちの暮らし」は折り込みページで、各月の記念行事が絵、イラスト、写真などで構成されていて分かりやすい。「自分の課題をもって学習に取り組もう！」では、課題解決学習の進め方について、学習の流れが丁寧に説明されている。問題を発見する、課題を設定する、計画・実践する、評価する、改善する、次の課題へとの内容である。「実習は安全に取り組もう！」では、服装、手の洗い方、調理実習など、様々な実習時の安全面について、細かくイラストつきで紹介されている。以上である。

教育長

ありがとう。

私は、開隆堂を推薦する。授業で実習、実験、ディスカッションが毎時間活動的に展開できる内容となっている教科書だと思った。また、調理実習での包丁の切り方をQRコードで動画を確認することができるのはいい試みだと思う。そのほかいろいろあったが、皆さん既におっしゃっていただいたので、同様の理由である。

さて、家庭分野は、開隆堂と教育図書に分かれたが、開隆堂を全ての皆様方がご推薦されておられるので、もしご異存がなければ家庭分野は開隆堂としたいがいかか。

委員一同

はい。

教育長

よろしいか。それでは、技術・家庭（家庭分野）は開隆堂を採択する。

さて、午前中からやってきた教科書の採択もいよいよ最後の16種目、英語である。それでは、これは高柳委員から願います。

高柳委員

私は、英語について、1番は東京書籍、2番は光村図書を推薦する。

次の1から3の観点を特に重視し、調査研究した。1点目は、生徒が英語学習に対して興味・関心を持ち、その音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、それらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションに活用できる技能を身につけることができるように、教材や資料が工夫されている。2つ目は、生徒が英語によるコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた日常的な話題や社会的な問題について、外国語で情報や考えなどを理解したり、学習内容を活用して表現したり伝え合ったりする力を養うことができるように工夫されている。3点目は、生徒の発達段階や興味・関心に即して、適切な題材を効果的に取り上げ、豊かな心情を育てたり、我が国や外国の文化に対し理解を深めたり、国際協調の精神を養ったりするのに役立つように教材が工夫されている。以上である。

坂口委員

私は、英語は第1に光村図書、第2に三省堂を選んだ。

光村図書は、全体的に楽しい英語の学習をというコンセプトが見られる。イラストのどれを見ても何か動きがあり、いきいきとした表現を意識しているようである。1年生のバースデーパーティーのプロデュースなどの会話は、動作も非常に弾んで見えた。2年生の暮らしの英語の中には、中学生には大事な会話である部活の会話があった。防災教育では、防災バッグを外国の子供たちに分かるように英語で語り合うというのもよいと思う。巻末の資料は非常に充実している。英語の文の形や数字の読み方、短縮形のまとめでは、このように表現するのだという一覧があるし、文法も簡単に分かりやすくというコンセプトが見られる。非常に親切で子供にとっては抵抗感なく受け入れられると思った。

三省堂であるが、丁寧な教科書という印象である。ページの下半分には英文法や大事な言葉の説明がついて、いかにも教科書らしい体裁になっていると思った。学習に非常に役に立つと思うし、安心して信頼できる教科書だと思う。

新井委員

1 番目は光村図書、2 番目は東京書籍である。

まず、光村図書である。この教科書のユニット、単元の構成は、扉、パート、ゴールとなっている。ゴールには目標としての言語活動、すなわち Speaking (話す) Reading (読む) Writing (書く) などが明確に示されている。教材は3つ展開されており、主教材(学習の中心となる教材) 帯教材(短時間学習用の教材) 小教材(主教材を補強する教材)から編集されている。教材の内容は、小学生の学習を生かして、中学生の学習に移行しやすい構成となっている。中学生の身近な日常に即しての話題で、親しみやすい内容である。巻頭の資料として「英語の学び方ガイド」、また巻末の資料として「英語のしくみ」、「Your Coach」は、生徒の英語学習での疑問や悩みに応える内容となっており、有益と考える。

次に東京書籍である。巻頭において英語学習の意義・目的等について、目的や場面、状況に応じたコミュニケーションをするための学びであると示されている。また、学びの全体像、見通しについて、「学びのロードマップ」としてUnit 0からUnit 11、Stage 1から3までの学びの目標が示されている。目的、場面、状況に応じて読む、聞く、話す、書く、言語能力向上の学びにもつながっている。小学校学習の振り返りと文法的な学習もその中に含まれている。題材についても、自分自身、友人関係、趣味、好きな食べ物、家庭、家族、クラブ活動など興味・関心のある内容で、主体的な学びに適している。巻末には「学習を振り返ろう」とのテーマで、今までの1から3年までの学びをチェックリストとして振り返られるように工夫されている。そこでまだ理解していない、また分からないところがあれば、該当ページも分かるようになっている。自分でチェックしながら学習の確認ができるようになっている。これらのことをサポートする上で資料編が充実している。小学校の単語、ワードリスト(この教科書の本文に出てきた語の一覧)、ローマ字の書き方、英語の音と文字、フォント(書体)の種類、キーセンテンス、ワードルーム(ジャンル別の補充単語・表現集)などである。日常の学習、振り返りに大いに活用できる内容と考える。以上である。

中田委員

英語は、1 番は光村図書、2 番は開隆堂である。

基礎が大事だと考えたので、1年生の最初の学習を丁寧に分かりやすく配慮されているもの、ゴールが設定されていて、見通しを持って学びに入ることができるようになっているものを選んだ。

光村図書は、Unit 1に入る前の基礎のページが、イラストで表されていて大変見やすくいいと思った。「英語の学び方ガイド」でも、これから学ぶことの不安を取ってくれるような内容で、安心して授業に臨めると思う。1年生のUnit 3までは本文が吹き出しになっているので、内容が理解しやすいと思う。3年間の教科書がストーリーでつながっているため、一緒に成長していく楽しみがあり、進級してからも引き続き英語に興味を持って取り組めると思う。QRコードも多くあり、リスニングに有効的かと思われた。本文の右横に「New Words」があり、確認がしやすくいいと思う。写真も多く使用されているため、視覚的にもイメージしやすいのが特徴かと思った。巻末の付録も充実していて、これも英語の表記だけでなくイラストが多く使用されているため、親しみを持っ

で見られると思う。

開隆堂は、PROGRAM 0 として 1 に入る前の基礎のページでイラストを使い、これから始まる授業に向けて自己紹介の準備やアルファベットや発音の確認もして、教科が始まる前の準備として工夫されていると思った。PROGRAM 3 までは、光村図書と同じく本文が吹き出しになっている。文字も大きく見やすいため、少しずつ慣れてくるように工夫されていた。こちらも本文の横に「New Words」があり、その都度すぐに確認しやすい構成になっている。「Try」では生徒同士の対話を進めるようになっていて、話す機会を設けているのも英語では必要な課題と思う。巻末資料も充実していて、学年末の復習として家庭でも活用できる内容と思った。以上である。

教育長

ありがとう。

英語は、書く、読む、話す、聞くといういわゆる 4 つの技能が大事であるが、特に話すことについては新学習指導要領でも話すことは発表とやり取りという 2 つに分かれており、それを踏まえて生徒の表現力、英語でどう表現するか、何を表現するか、あるいは表現力を育成するためにどんな活動が組まれているかという視点で教科書を見た。その結果、光村図書が大変充実していると思っている。しかも分かりやすく示されていると感心をした。表現力を育成するための工夫というものがほかの教科書よりは大変秀でてよかった。特に、単元ごとの発表や表現活動に加えて、巻末に絵を使ってストーリーを自分の言葉で伝えるという「Story Retelling」が 3 学年とも用意されているが、これを上手に使えるば生徒たちの表現力が延びるのではないかと期待できる内容であった。また、登場人物が 3 年間ずっと同じ人物で、ある意味では登場人物たちの成長物語になっているということも工夫されていて、生徒が自分と同年代の人物の話なので身近に感じやすい内容だと思う。ゴールが示されているので、これまでの学習をどう生かして、生徒たちが目標を持って取り組むかというのが分かりやすいかと思った。

2 番目は三省堂である。大変定評のある教科書だと見ていて、バランスが取れているし、いい教科書だと感じた。

さて、英語であるが、5 人のうち 4 人が 1 番目に光村図書を推しておられる。また、高柳委員も光村図書は 2 番目に推されているので、もしご異存がなければ光村図書ということで決めたいと思うがいかがか。何かご意見があればお出しいただきたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、英語については光村図書を採択する。

お疲れ様であった。以上で教科書の 16 種目についての採択を終わった。改めて、全種目の採択が終了したので、発行者を確認したいと思う。

まず、国語は三省堂。書写は光村図書。社会（地理的分野）は帝国書院。社会（歴史

的分野)は教育出版。社会(公民的分野)は東京書籍。地図は帝国書院。道徳は光村図書。数学は数研出版。理科は東京書籍。音楽(一般)は教育芸術社。音楽(器楽合奏)は教育出版。美術は日本文教出版。保健体育は大日本図書。技術・家庭(技術分野)は開隆堂。技術・家庭(家庭分野)は開隆堂。英語は光村図書である。

改めてお聞きするが、以上を採択するというところでよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、議案第48号については、先ほど種目ごとに述べた発行者の教科用図書を採択する。

以上で議案を終わる。

- (1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕
- (2) 令和2年度教育に関する事務の管理等に係る点検・評価について〔継続審議〕

教育長

次に、協議案件である。

継続審査中の協議案件2件については、本日のところは継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただきます。

- (1) 教育長報告

その他

その他

教育長

次に、教育長報告である。本日は予定している報告案件はない。事務局、何か他にあるか。

事務局

特段ない。

教育長

それでは、ここで一旦休憩とし、休憩後に下石神井小学校の視察に向かう。なお、本日の定例会は視察の終了をもって閉会とさせていただく。

それでは、一旦休憩とする。